

日常生活圏域ニーズ調査結果について

地域に居住する高齢者ごとの課題や多様なニーズを的確に把握・分析し、より精度の高い計画策定を行うために必要とされている「日常生活圏域ニーズ調査」を実施しました。

これまでの介護保険事業計画策定における調査では、「どのようなサービスが必要かを、高齢者自身に尋ねる調査」が実施されていましたが、そのような調査では「要支援」「要介護」になるおそれのある者の割合・人数等を把握することが難しく、高齢者の利用意向のみにとどまらない、真のニーズを確認することが難しくなっていました。

今回行いました「日常生活圏域ニーズ調査」では、日常生活圏域ごとに高齢者の要介護リスク等の指標を把握・集計することで、高齢者の利用意向の有無を問わず、リスクの裏返しとしての潜在的なニーズの把握を含めた、より広い意味でのニーズ調査となっています。

(1)実施概要

対 象 者	本市にお住まいの 65 才以上の方 4,833 人
調 査 期 間	平成 23 年 6 月 27 日～平成 23 年 7 月 15 日
調 査 方 法	郵送方式にて配布回収
回収件数／回収率	4,017 件／83.1% (内、有効回答 3,948 件／81.7%)

(2)調査項目について

本市においては、原則、国が示した日常生活圏域ニーズ調査項目にて実施しました。ただし、必要と思われる項目を本市で独自に若干追加しています。

調査項目 【国】	①基本情報（世帯構成、疾病状況、お住まいの状況、所得の状況等） ②基本チェックリスト（介護予防事業の対象者把握を兼ねる） ③身体機能状況（運動、閉じこもり、転倒、口腔、栄養、うつ、認知症等） ④日常生活状況（ADL（食事・排泄・入浴・移動等）、IADL（買い物・洗濯・金銭管理・薬の管理等）、社会参加リスク） など
調査項目 【市追加】	①生きがい等について ②緊急避難場所について ③買い物について ④交流、見守り、支え合いについて ⑤介護保険制度等について

(3)留意点

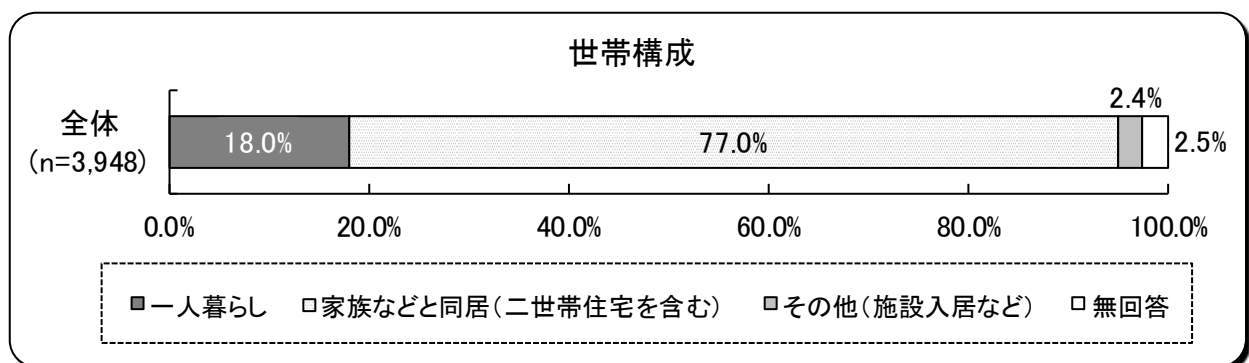
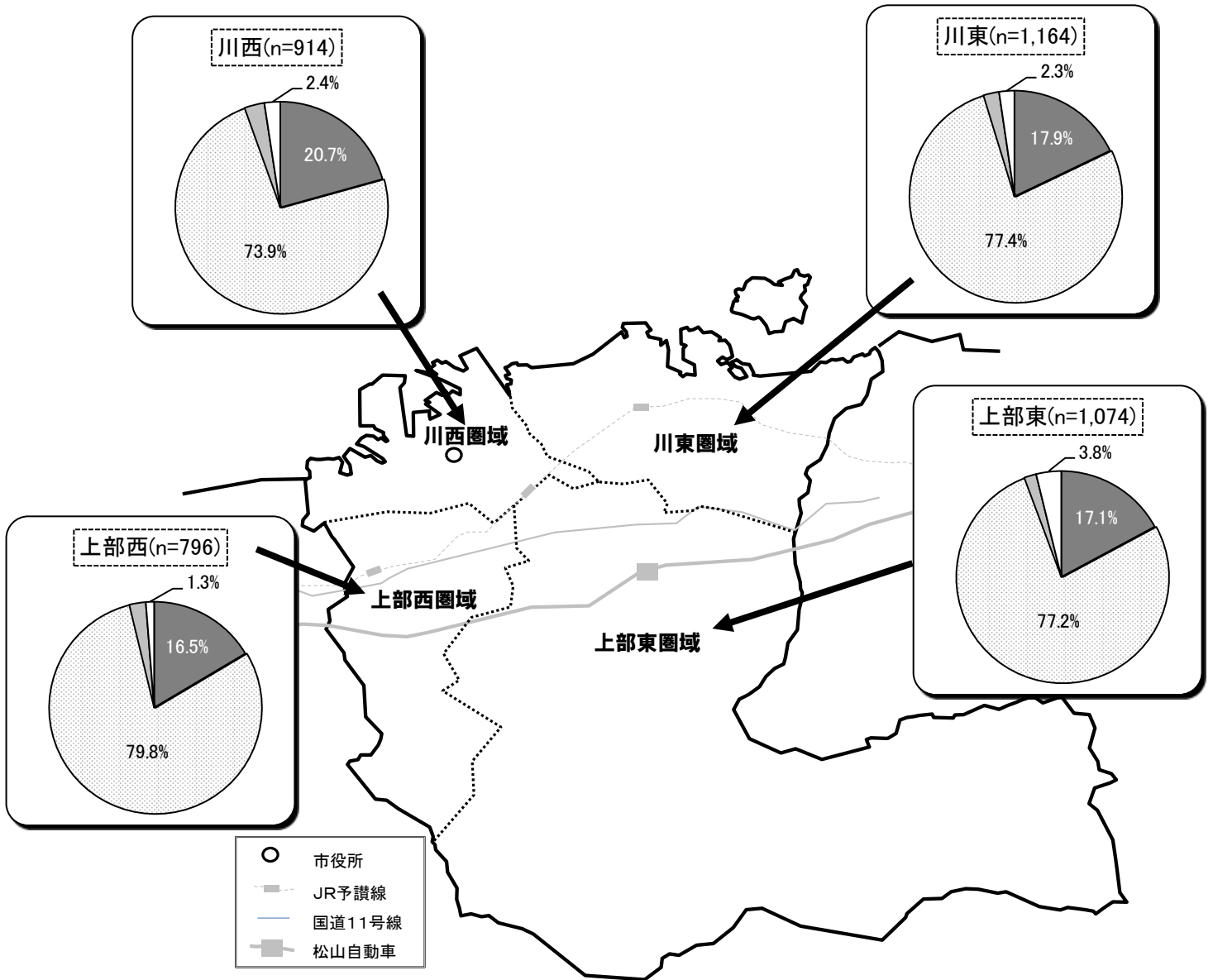
1. 百分率による集計では、回答者数を 100.0%として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記します。このため、百分率の合計が 100.0%とならない場合があります。
2. 複数回答の場合、百分率の合計が 100.0%を超える場合があります。
3. 単数回答の場合も「無回答」を除き、100.0%とならない場合があります。

(4) 調査結果について(抜粋)

①世帯構成について

アンケート結果より世帯構成を確認すると、新居浜市全体で「一人暮らし」18.0%、「家族など同居」77.0%となっています。

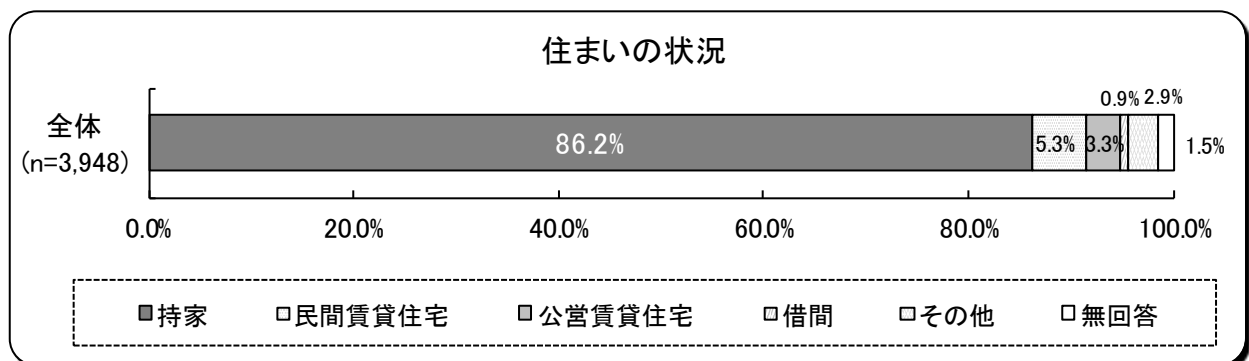
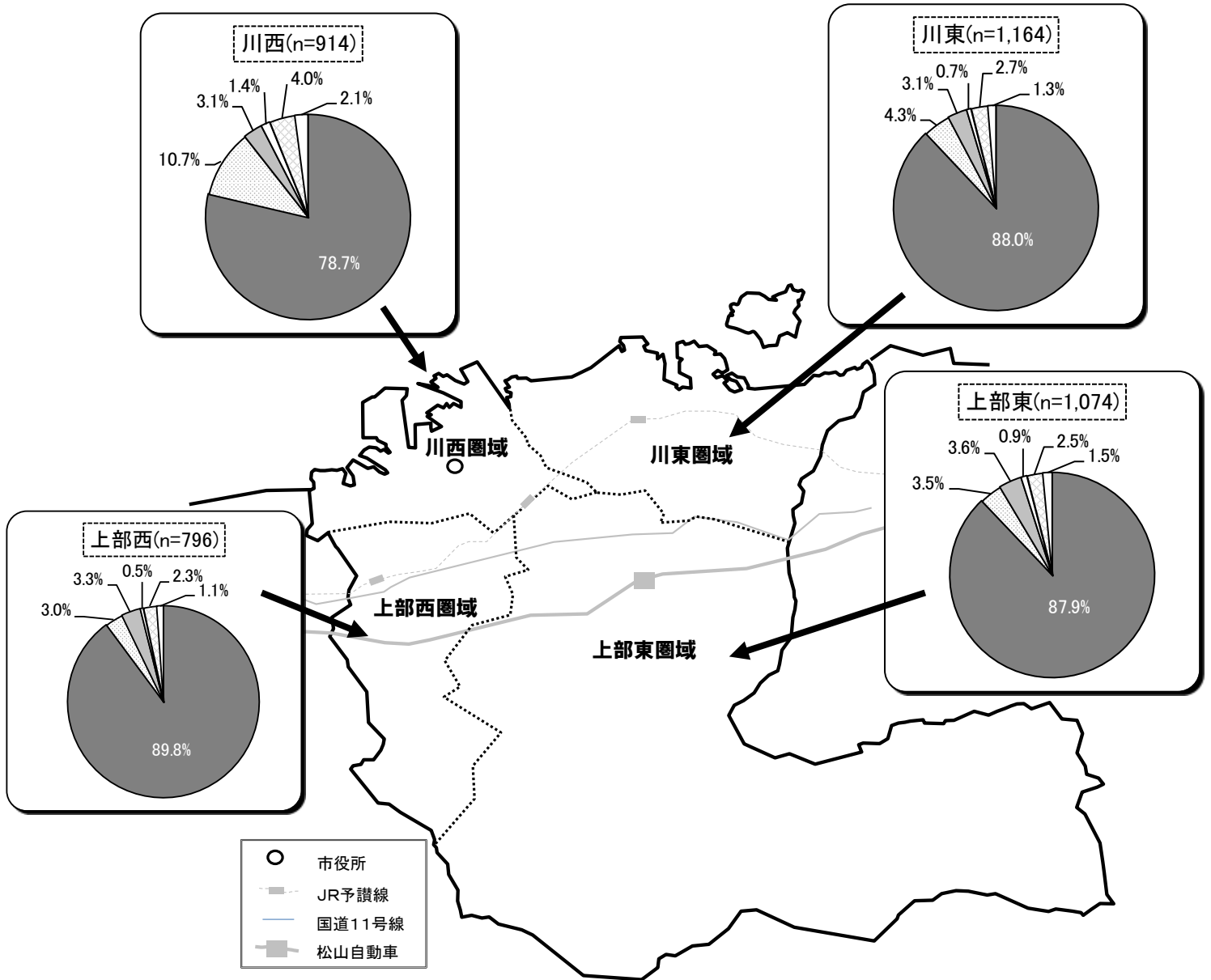
圏域別に見る一人暮らしの状況では、川西圏域(20.7%)が最も多く、次いで、川東圏域(17.9%)、上部東圏域(17.1%)、上部西圏域(16.5%)となっています。



②住まいの状況について

アンケート結果より住まいの状況を確認すると、新居浜市全体で「持家」86.2%、「民間賃貸住宅」5.3%、「公営賃貸住宅」3.3%、「借間」0.9%となっています。

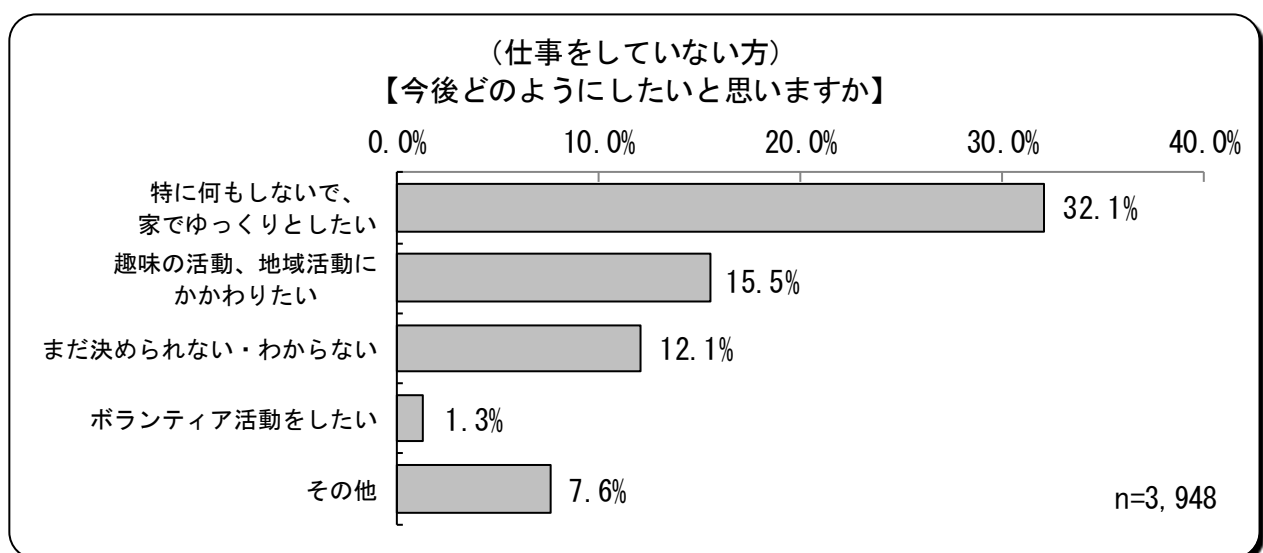
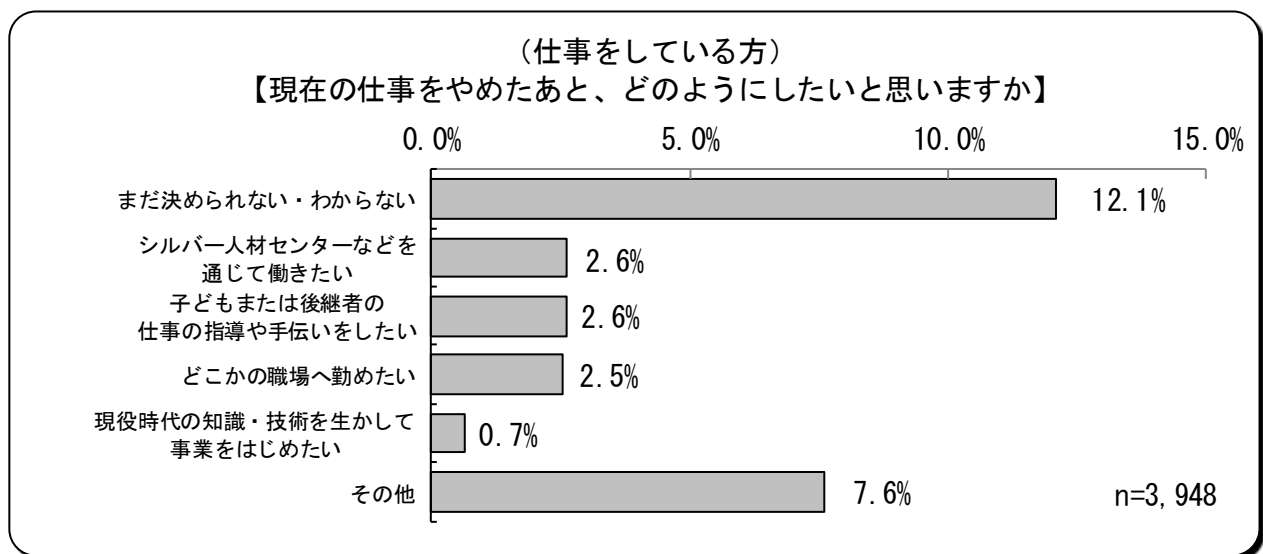
圏域別に見る持家の状況では、上部西圏域（89.8%）が最も多く、次いで、川東圏域（88.0%）、上部東圏域（87.9%）、川西圏域（78.7%）となっています。



③今後の生活について

仕事をしている方は現在の仕事をやめたあと、仕事をしていない方は今後どのようにしたいと思うかたずねると、仕事をしている方は「まだ決められない・わからない」が12.1%と最も多く、次いで、「その他」7.6%、「シルバー人材センターなどを通じて働きたい」2.6%、「子どもまたは後継者の仕事の指導や手伝いをしたい」2.6%、「どこかの職場へ勤めたい」2.5%、「現役時代の知識・技術を生かして事業をはじめたい」0.7%の順となっています。

仕事をしていない方は、「特に何もしないで、家でゆっくりとしたい」32.1%、「趣味の活動、地域活動にかかわりたい」15.5%、「まだ決められない・わからない」12.1%、「ボランティア活動をしたい」1.3%、「その他」7.6%の順となっています。

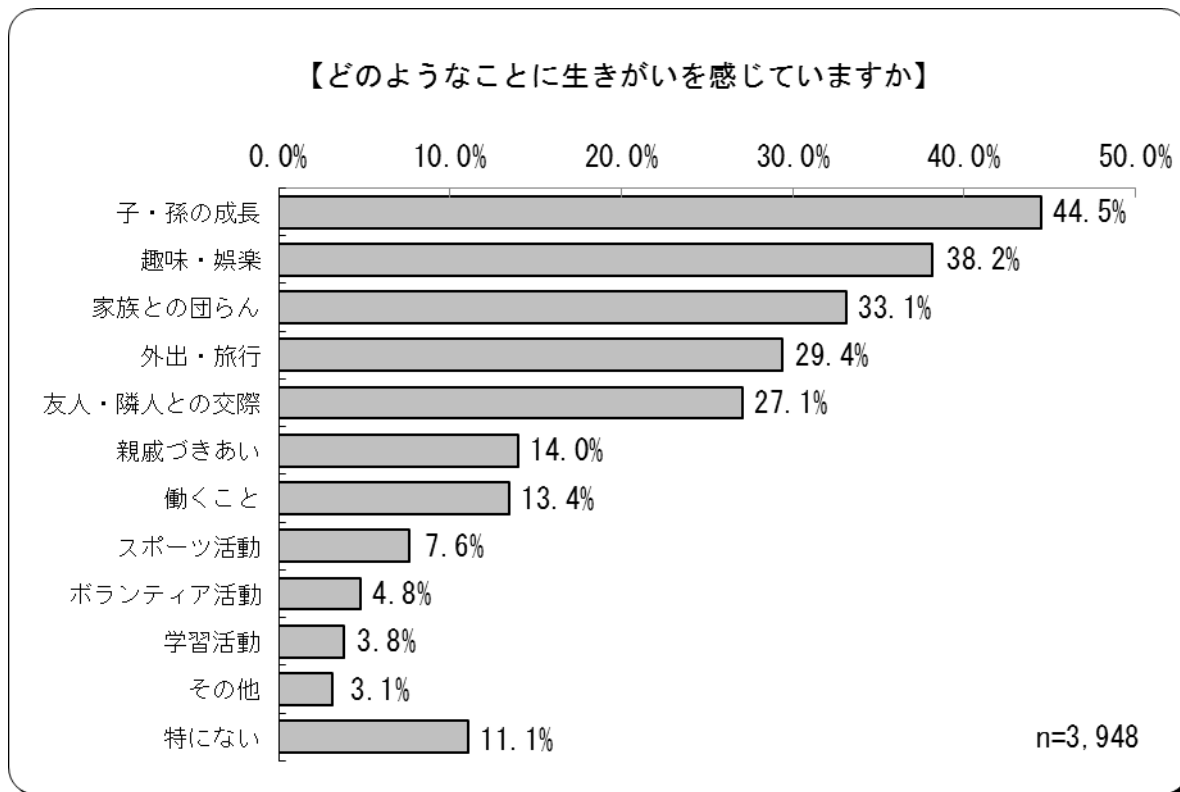


【その他の意見】

- ・畑仕事、家庭菜園をしたい
- ・スポーツ、カラオケ、カメラなどの趣味を楽しみたい
- ・友人と旅行をしたい
- ・ボランティアを試してみたい 等

④生きがいを感じることにについて

どのようなことに生きがいを感じているかたずねると、「子・孫の成長」44.5%が最も多く、次いで、「趣味・娯楽」38.2%、「家族との団らん」33.1%、「外出・旅行」29.4%、「友人・隣人との交際」27.1%と答えた方が多くなっています。



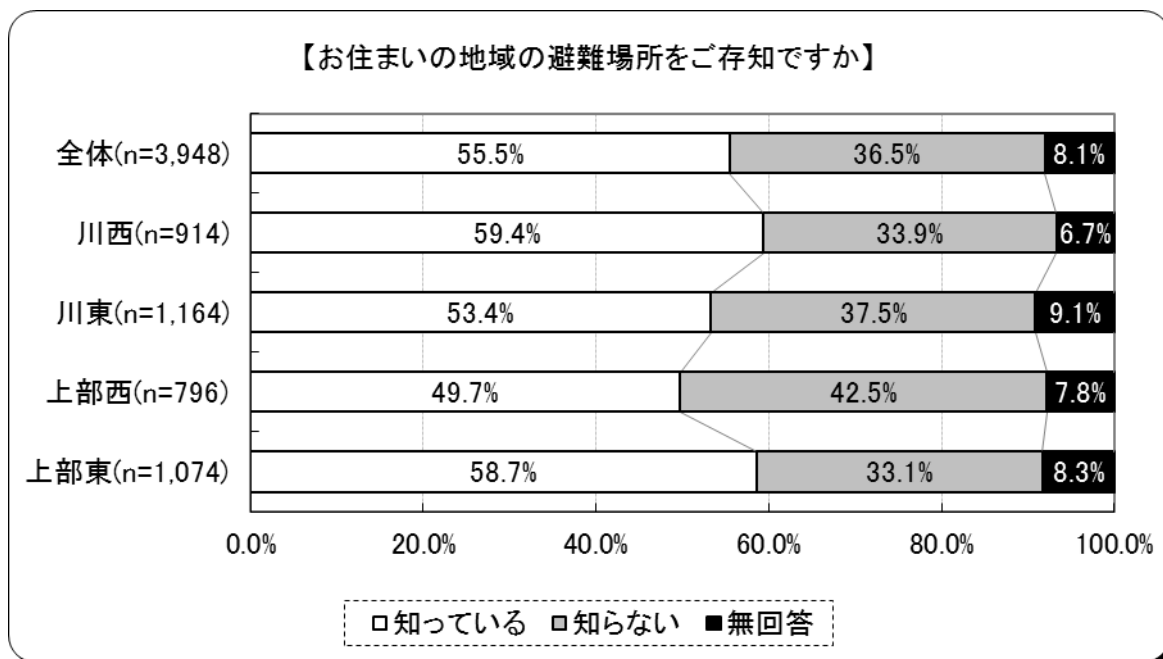
【その他の意見】

- ・ デイサービスなど施設での活動
- ・ 宗教関係
- ・ 畑仕事や家庭菜園
- ・ 読書やスポーツなど趣味活動 等

⑤緊急避難場所について

お住まいの地域の避難場所を知っているかたずねると、全体では「知っている」55.5%、「知らない」36.5%となっています。

「知らない」と答えた方を圏域別にみると、上部西圏域が42.5%と最も多くなっています。次いで、川東圏域（37.5%）、川西圏域（33.9%）、上部東圏域（33.1%）となっています。

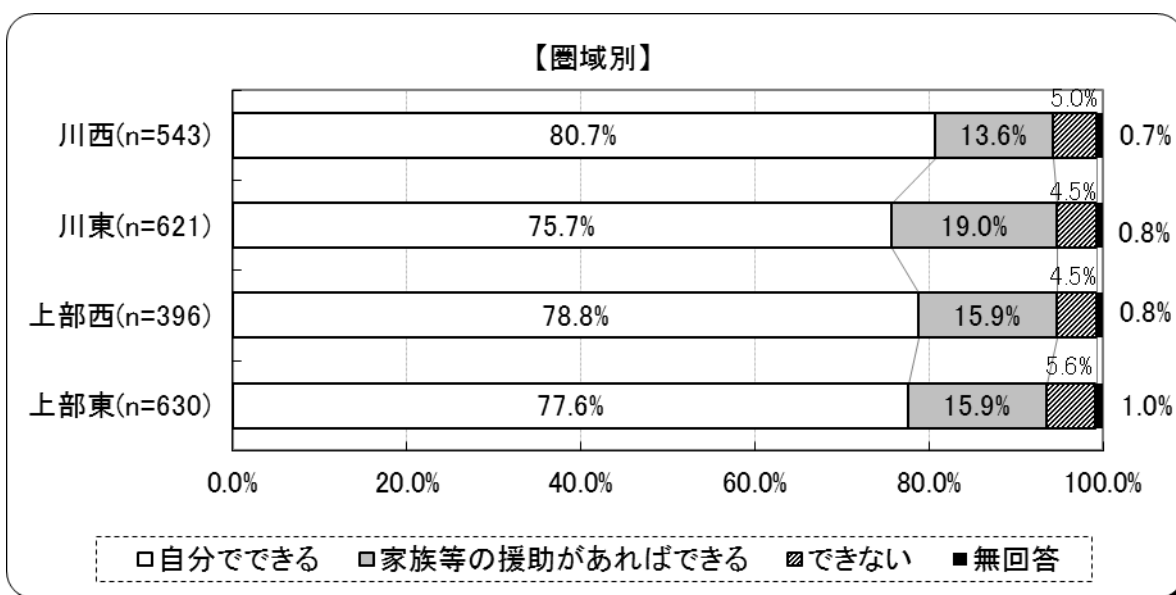
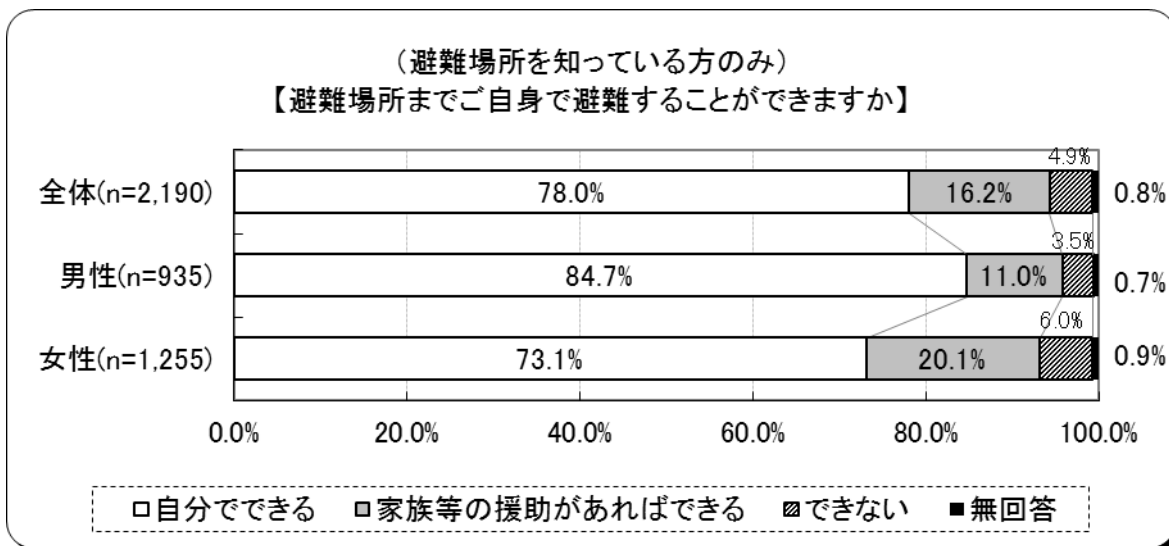


◆避難場所までご自身で避難することができますか◆

お住まいの地域の避難場所を「知っている」と答えた方に、避難場所までご自身で避難することができるかどうかたずねると、全体の78.0%の方が「自分ができる」と答えており、次いで、「家族等の援助があればできる」16.2%、「できない」4.9%の順となっています。

性別にみると、男性は「自分ができる」と答えた方が8割を超えており、女性は男性に比べて「家族等の援助があればできる」「できない」と答えた方が多くなっています。

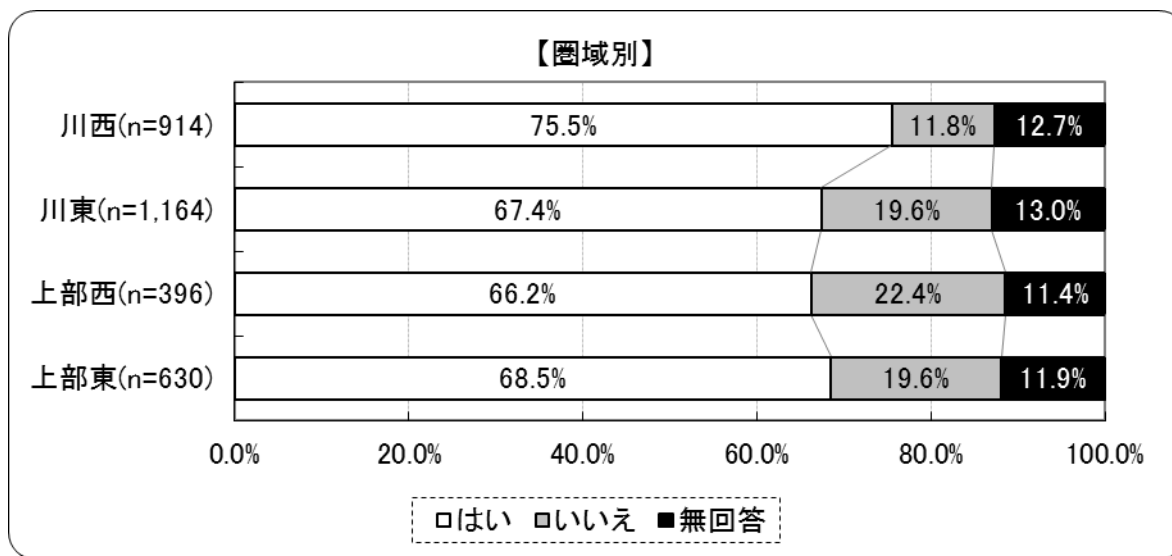
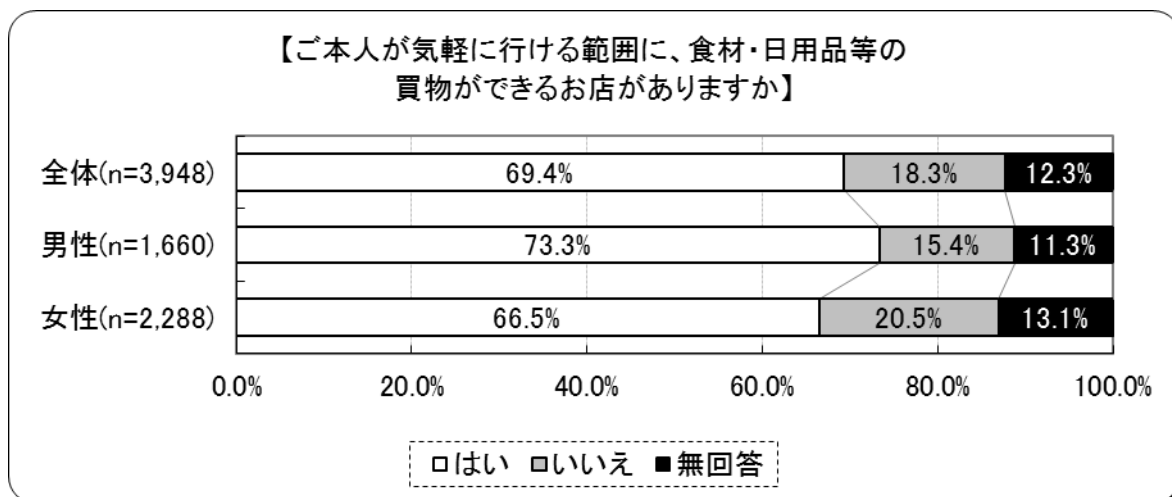
避難場所までご自身で避難することが「できない」と答えた方を圏域別にみると、上部東圏域(5.6%)が最も多く、次いで、川西圏域(5.0%)、川東圏域(4.5%)、上部西圏域(4.5%)の順となっています。



⑥買物について

お住まいのご近所（あて名のご本人が気軽に行ける範囲）には、食材、日用品等の買物ができるお店があるかたずねると、全体では「ある（はい）」69.4%、「ない（いいえ）」18.3%となっています。

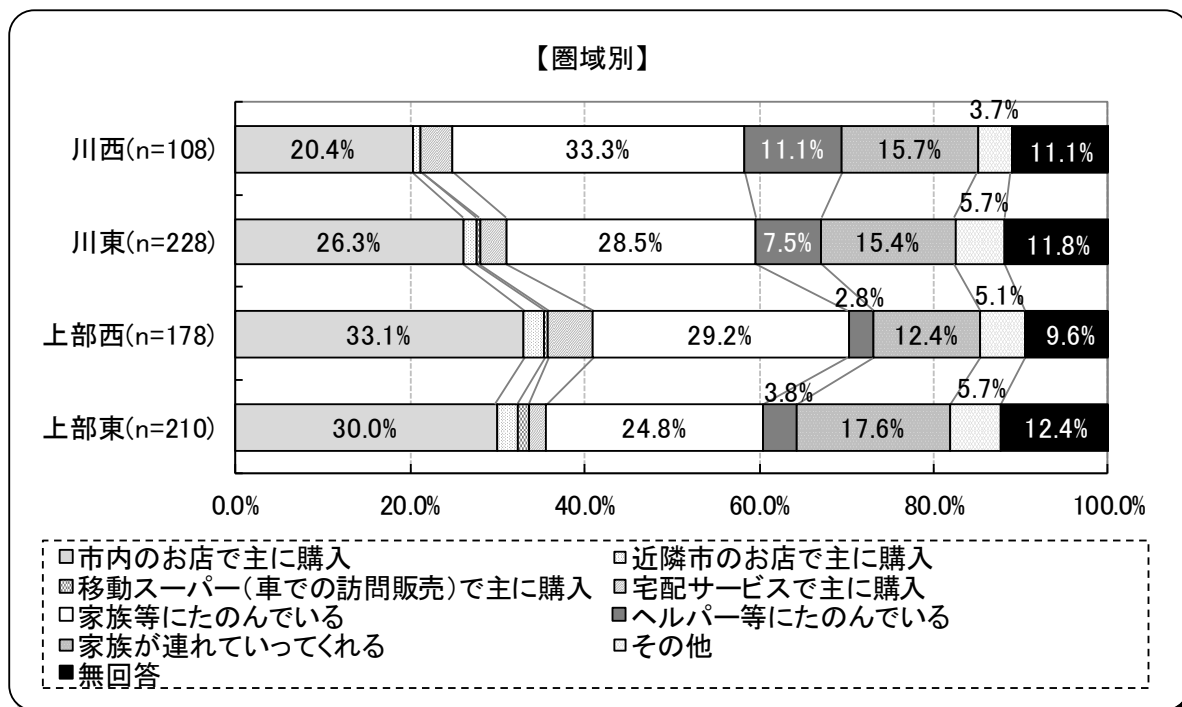
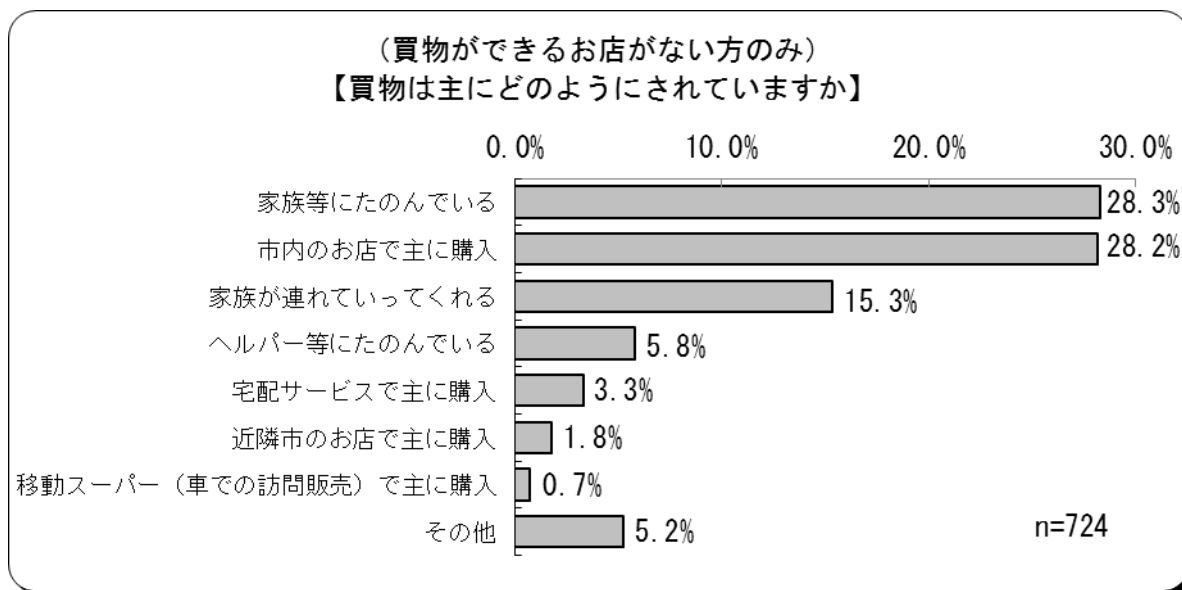
「ある（はい）」と答えた方を圏域別にみると、川西圏域（75.5%）、上部東圏域（68.5%）、川東圏域（67.4%）、上部西圏域（66.2%）となっており、川西圏域は食材、日用品等の買物ができるお店が多いことがわかります。



◆買物は主にどのようにされていますか◆

お住まいのご近所には、食材、日用品等の買物ができるお店が「ない(いいえ)」と答えた方に、買物は主にどのようにしているかたずねると、「家族等にたのんでいる」28.3%と答えた方が最も多くなっており、次いで、「市内のお店で主に購入」28.2%、「家族が連れていってくれる」15.3%の順となっています。

圏域別にみると、川西圏域・川東圏域は「家族等にたのんでいる」、上部西圏域、上部東圏域は「市内のお店で主に購入」と答えた方が最も多くなっています。



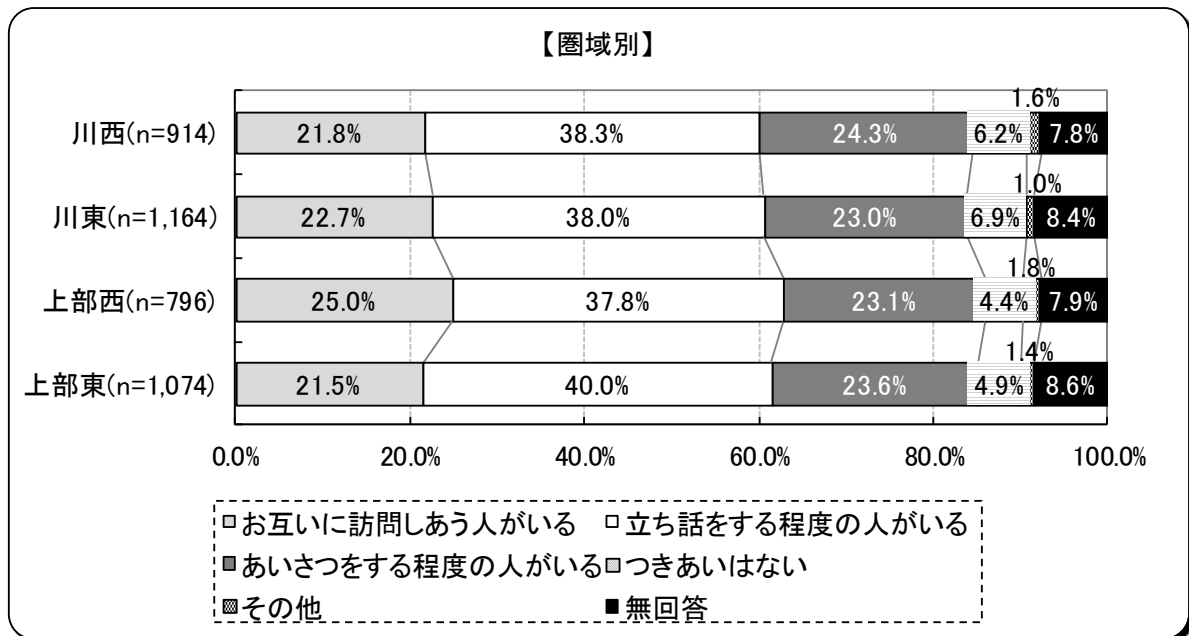
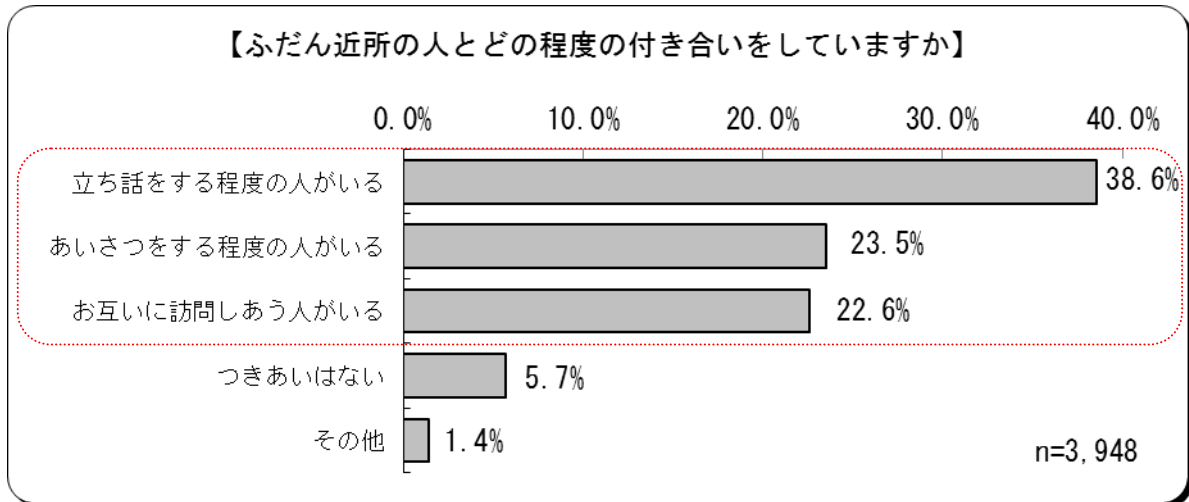
【その他の意見】

- ・グループホームなど施設の人に依頼
- ・生協などの宅配サービスを利用
- ・買物にはいかない・いけない
- 等

⑦近所付き合いについて

ふだん近所の人とどの程度の付き合いをしているかたずねると、「立ち話をする程度の人がいる」38.6%が最も多く、次いで、「あいさつをする程度の人がいる」23.5%、「お互いに訪問しあう人がある」22.6%、「つきあいはない」5.7%の順となっています。

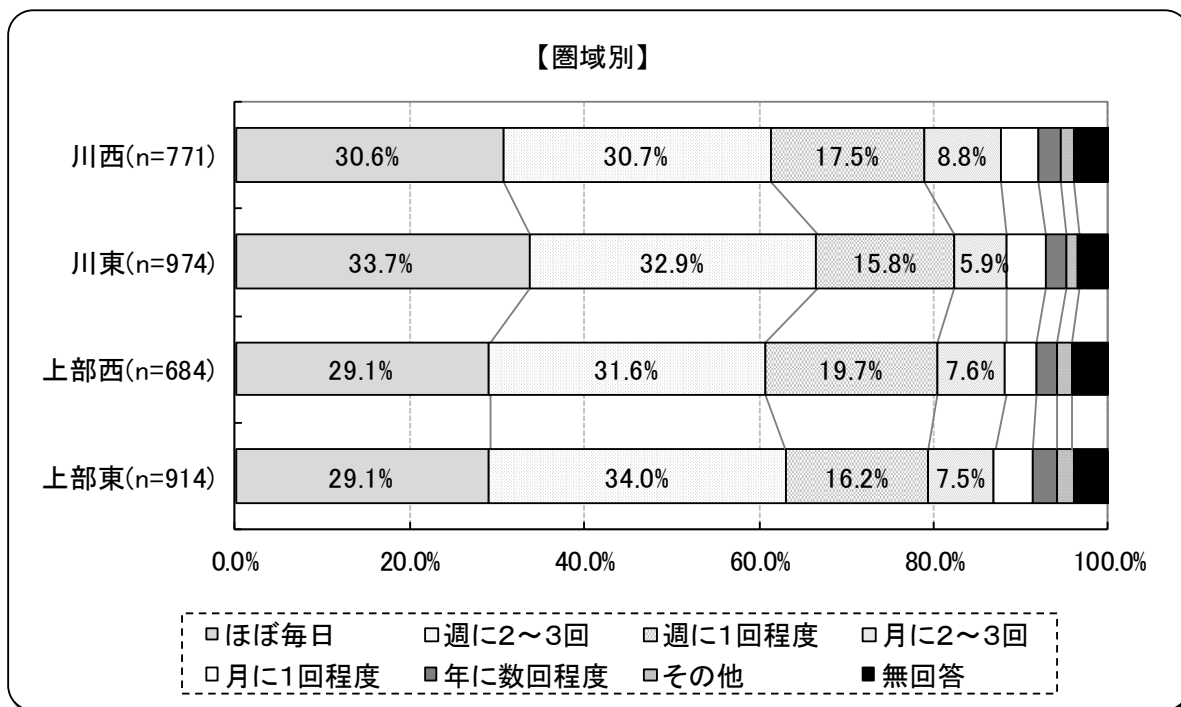
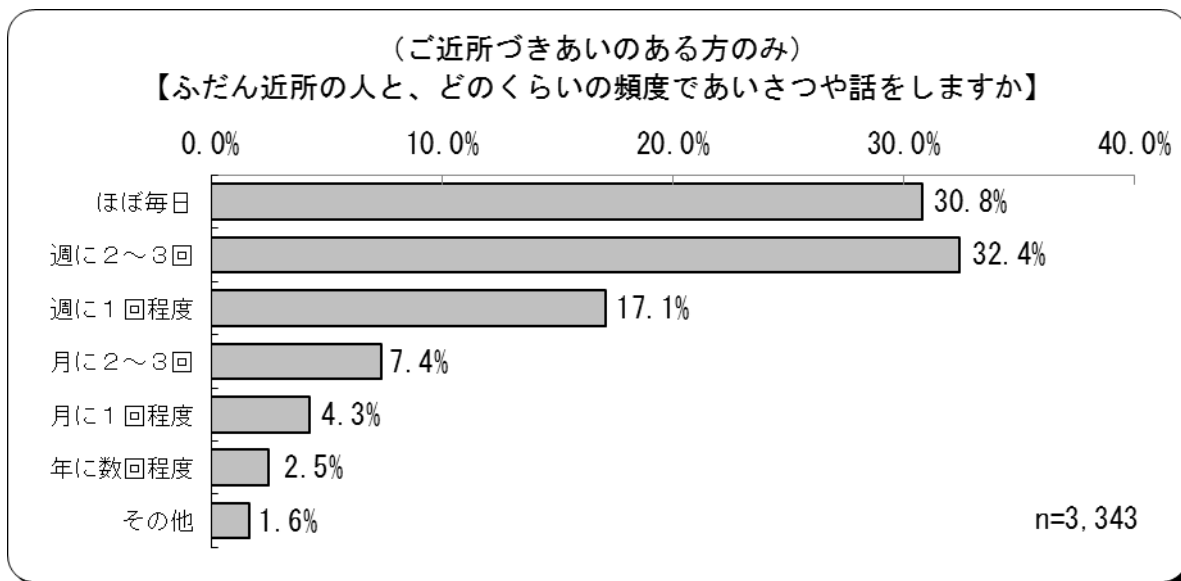
圏域別にみると、いずれも「立ち話をする程度の人がいる」と答えた方が最も多くなっています。次いで、川西圏域・川東圏域、上部東圏域は「あいさつをする程度の人がいる」、上部西圏域は「お互いに訪問しあう人がある」と答えた方が多くなっています。



◆ふだん近所の人と、どのくらいの頻度であいさつや話をしますか◆

近所付き合いについて、「立ち話をする程度の人がいる」「あいさつをする程度の人がいる」「お互いに訪問しあう人がある」と答えた方に、ふだん近所の人と、どのくらいの頻度であいさつや話をするかたずねると、「週に2～3回」32.4%と答えた方が最も多くなっており、次いで、「ほぼ毎日」30.8%、「週に1回程度」17.1%の順となっています。

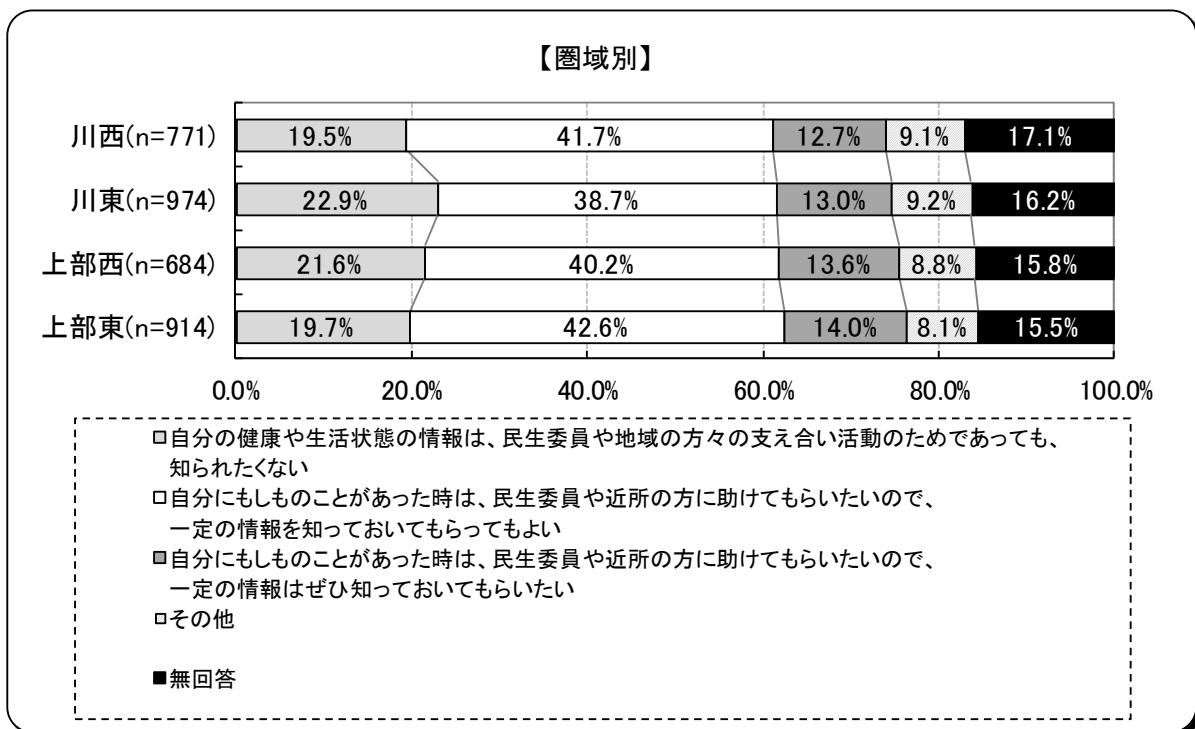
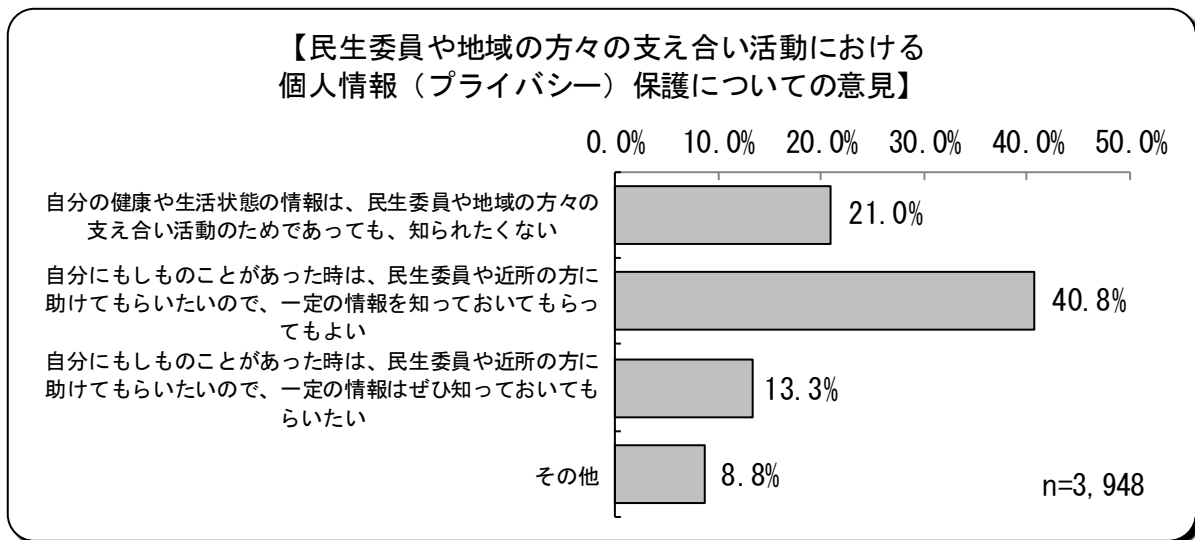
圏域別にみると、川西圏域・上部西圏域・上部東圏域は「週に2～3回」、川東圏域は「ほぼ毎日」と答えた方が最も多くなっています。



⑧個人情報(プライバシー)保護について

民生委員や地域の方々の支え合い活動における個人情報(プライバシー)保護について意見をたずねると、「自分にもしものことがあった時は、民生委員や近所の方に助けてもらいたいのので、一定の情報を知っておいてもらってもよい」40.8%が最も多く、次いで、「自分の健康や生活状態の情報は、民生委員や地域の方々の支え合い活動のためであっても、知られたくない」21.0%、「自分にもしものことがあった時は、民生委員や近所の方に助けてもらいたいのので、一定の情報はぜひ知っておいてもらいたい」13.3%の順となっています

圏域別にみても同様の結果となっています。



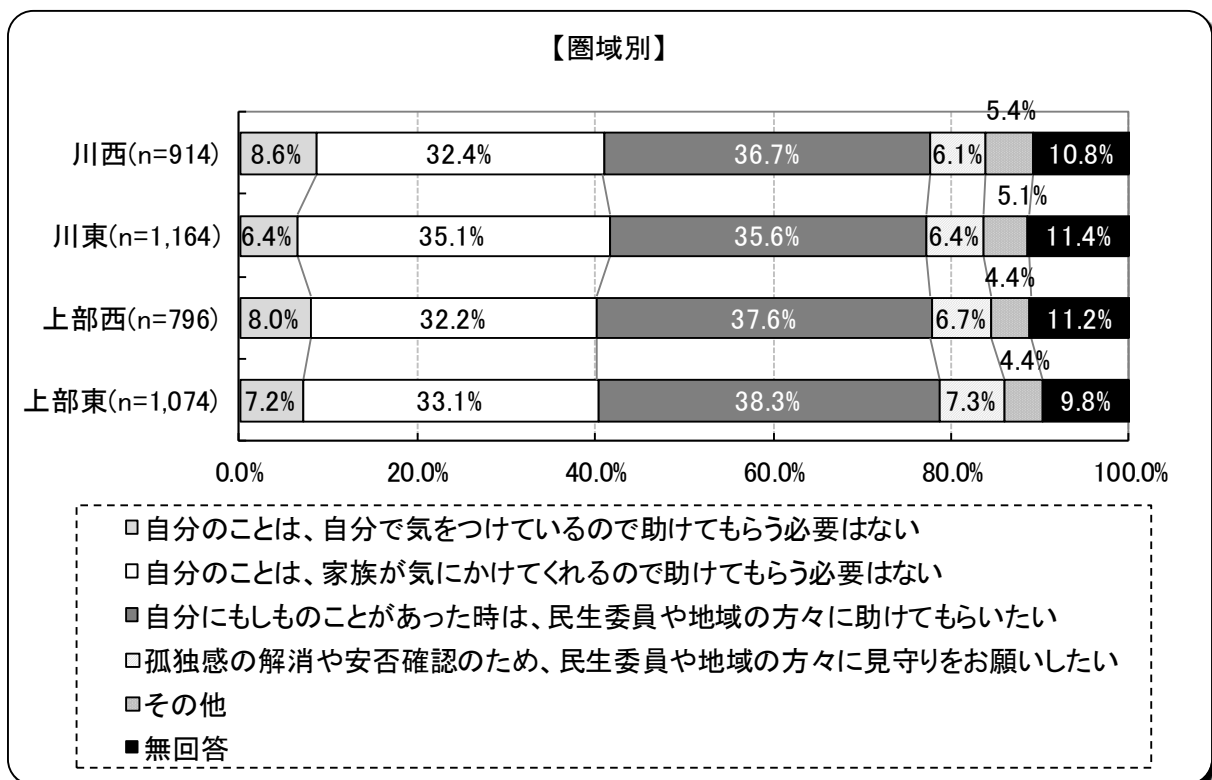
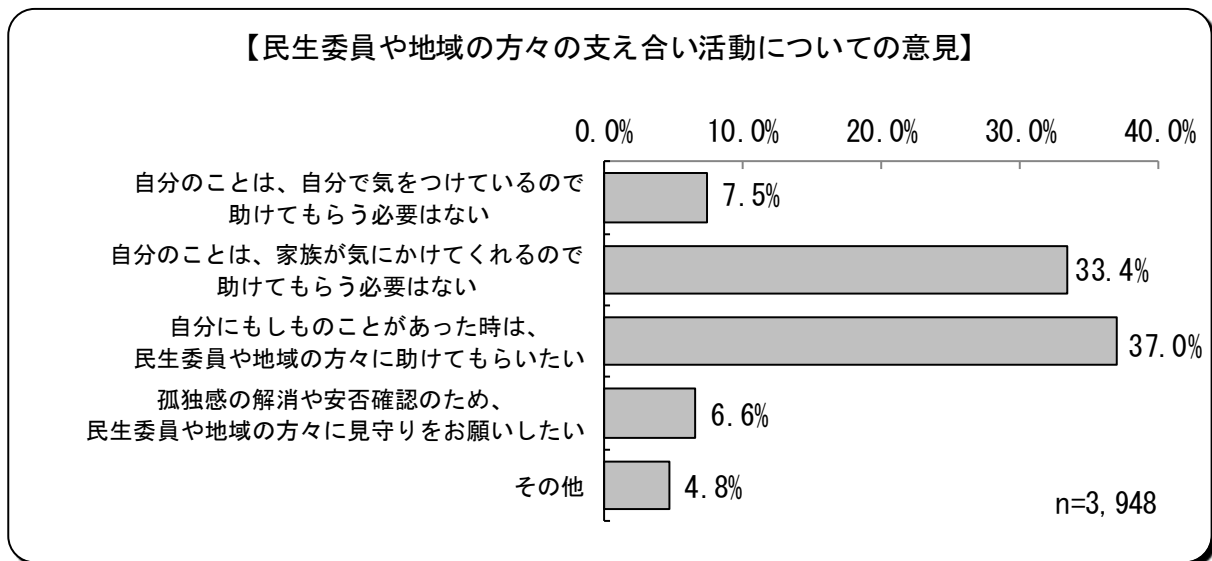
【その他の意見】

- ・ わからない
- ・ 家族がいるので問題ない
- ・ 人に迷惑をかけたくない
- ・ 民生委員がわからない
- 等

⑨民生委員や地域の方々の支え合い活動について意見

民生委員や地域の方々の支え合い活動について意見をたずねると、「自分にもしものことがあった時は、民生委員や地域の方々に助けてもらいたい」37.0%、「自分のことは、家族が気にかけてくれるので助けてもらう必要はない」33.4%、「自分のことは、自分で気をつけているので助けてもらう必要はない」7.5%、「孤独感の解消や安否確認のため、民生委員や地域の方々に見守りをお願いしたい」6.6%の順となっています。

圏域別にみても同様の結果となっています。



【その他の意見】

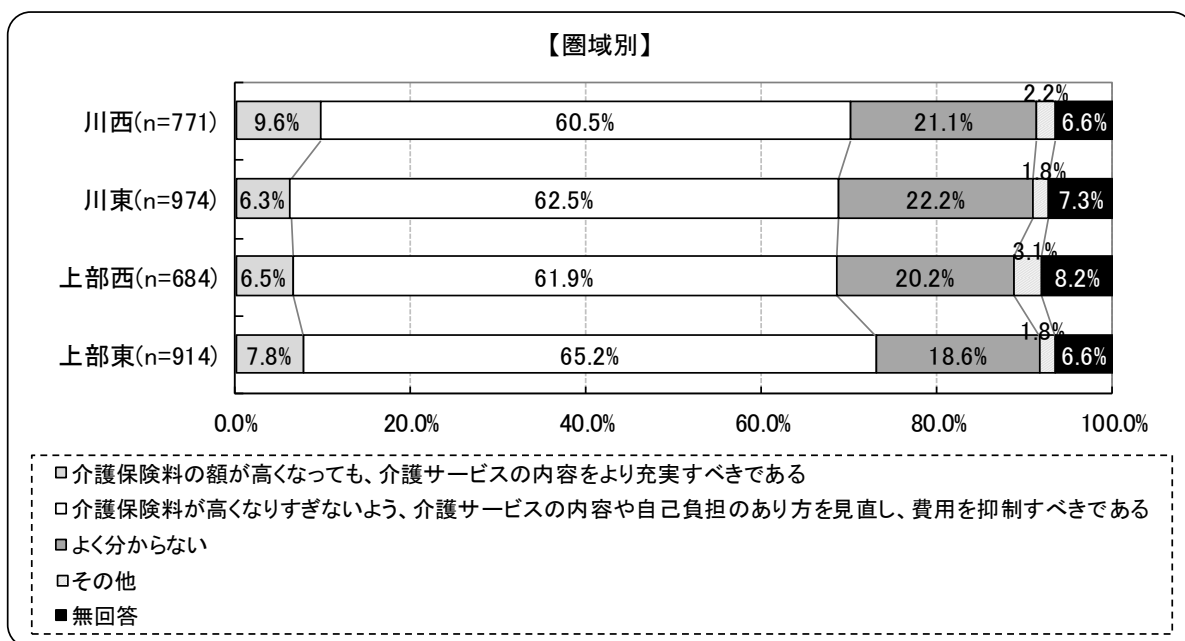
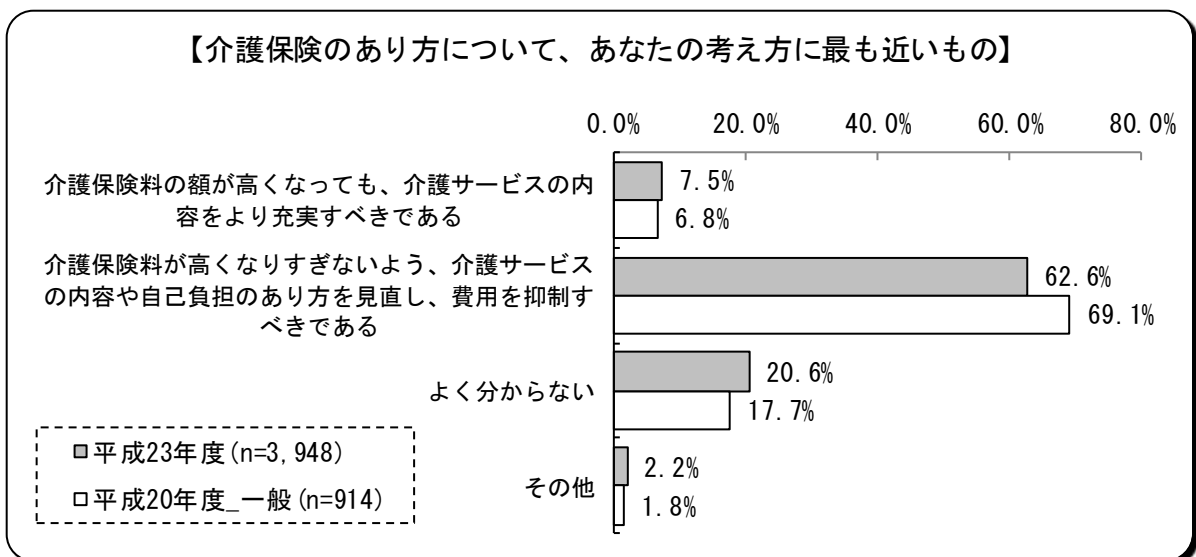
- ・ 民生委員のことをよく知らないので不安
 - ・ 人に迷惑をかけたくない
 - ・ 今は必要ない
 - ・ 先のことはわからない
- 等

⑩介護保険のあり方について

高齢者が安心して暮らせるための介護保険制度ですが、今後、施設を整備したり、介護サービスを利用する人が増えたり、サービスの内容をより充実させたりすると、介護保険料の額は高くなる仕組みになっていることを踏まえたうえで、介護保険のあり方についての考え方に最も近いものを訪ねると、「介護保険料が高くなりすぎないように、介護サービスの内容や自己負担のあり方を見直し、費用を抑制すべきである」62.6%と答えた方が最も多く、次いで、「よく分からない」20.6%、「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」7.5%の順となっています。

また、平成20年度に一般高齢者を対象に実施したニーズ調査の結果と比較すると、「よく分からない」「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」と答えた方が若干多くなっています。

また、圏域別にみても同様の結果となっています。

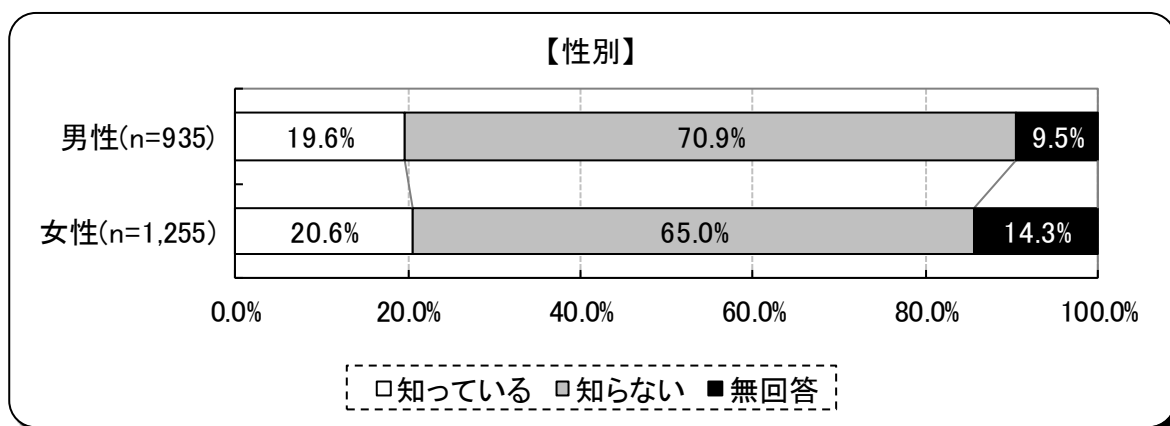
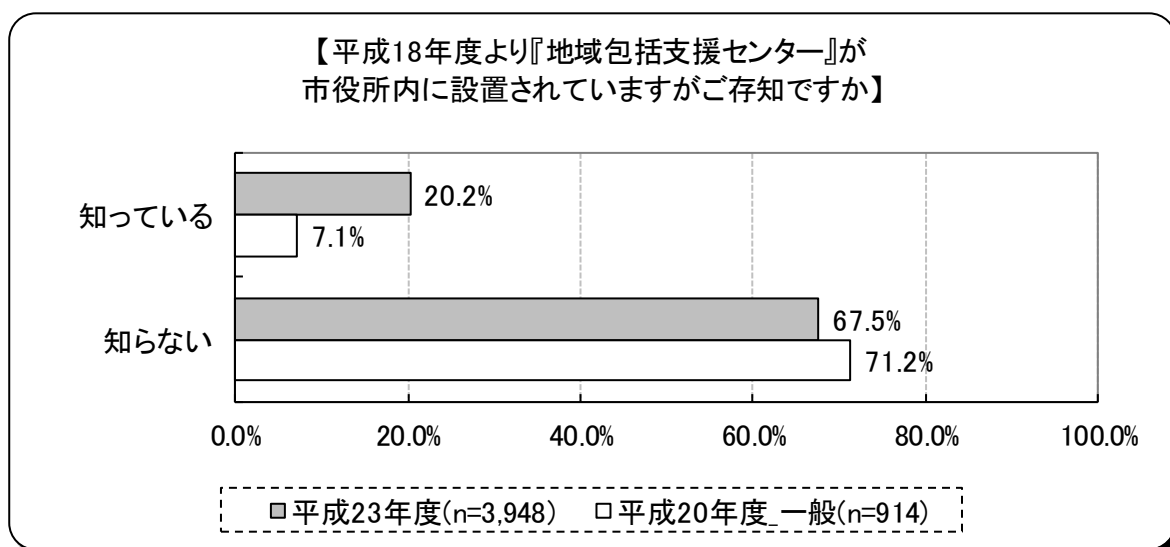


⑪地域包括支援センターの認知度

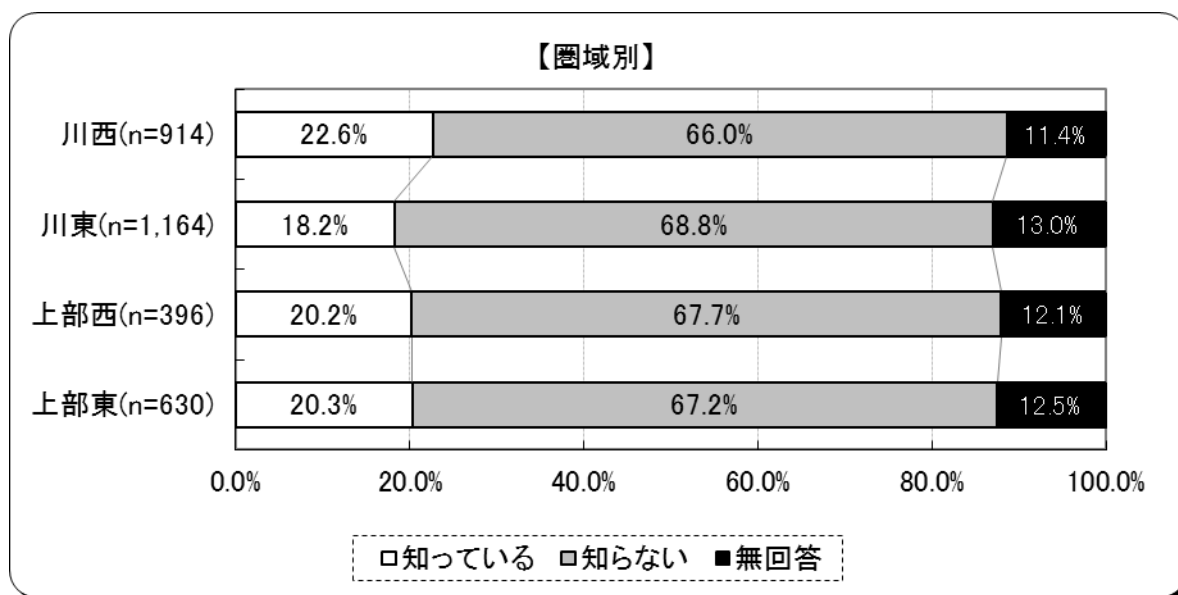
平成 18 年度より、高齢者の保健・福祉・医療の向上のために必要な援助を行ったり、相談に応じる『地域包括支援センター』が市役所内に設置されていることを知っているかたずねると、全体で「知っている」と答えた方は 20.2%、「知らない」67.5%となっています。

また、平成 20 年度に一般高齢者を対象に実施したニーズ調査の結果と比較すると、「知っている」と答えた方が 2 倍以上となっており、認知度が上がっていることがわかります。

「知っている」と答えた方を性別にみると、男性（19.6%）、女性（20.6%）と若干、男性より女性の認知度が高くなっています。



「知っている」と答えた方を圏域別にみると、川西圏域（22.6%）、川東圏域（18.2%）、上部西圏域（20.2%）、上部東圏域（20.3%）となっており、川東圏域の認知度が高くなっています。

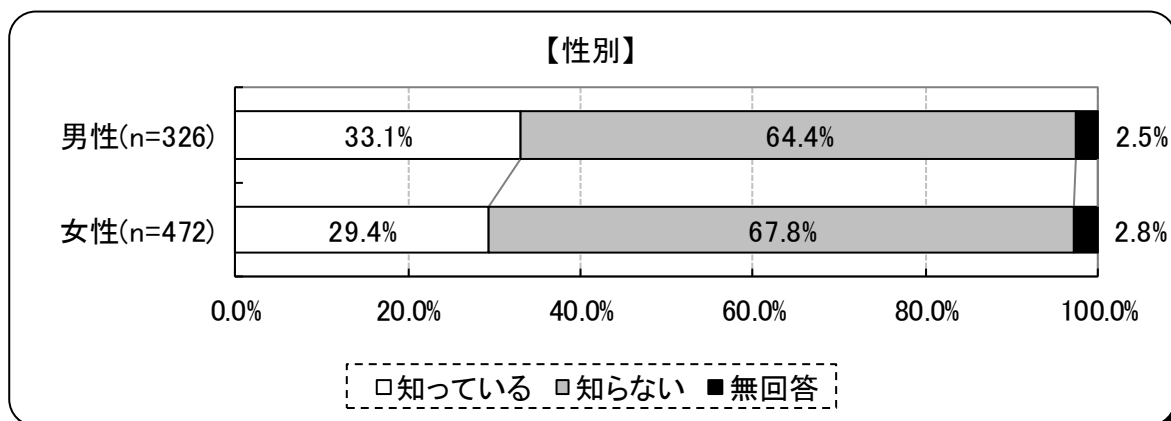
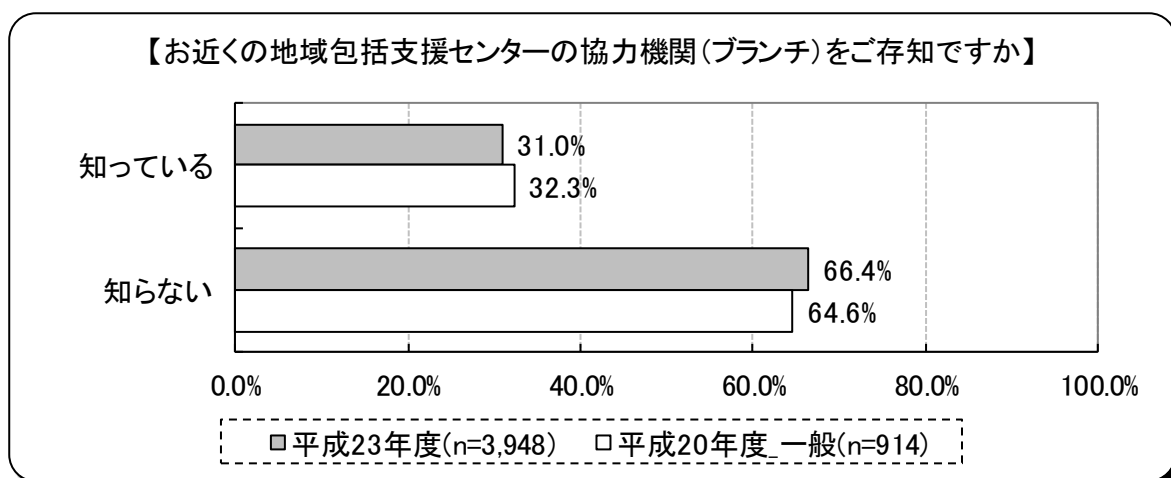


◆地域における相談窓口の協力機関(ブランチ)の認知度◆

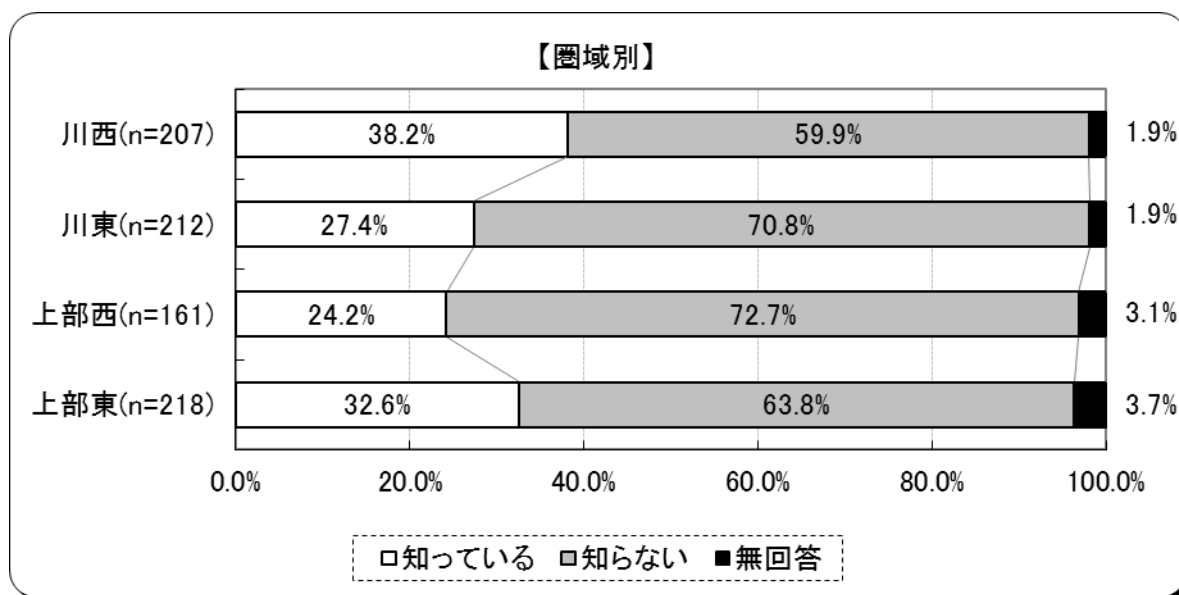
地域包括支援センターには、地域における相談の窓口として協力機関（ブランチ）が市内9か所がありますが、お近くのブランチを知っているかたずねると、全体で「知っている」と答えた方は31.0%、「知らない」66.4%となっています。

また、平成20年度に一般高齢者を対象に実施したニーズ調査の結果と比較すると、「知っている」と答えた方が若干減少しています。

「知っている」と答えた方を性別にみると、男性（33.1%）、女性（29.4%）と女性より男性の認知度が高くなっています。



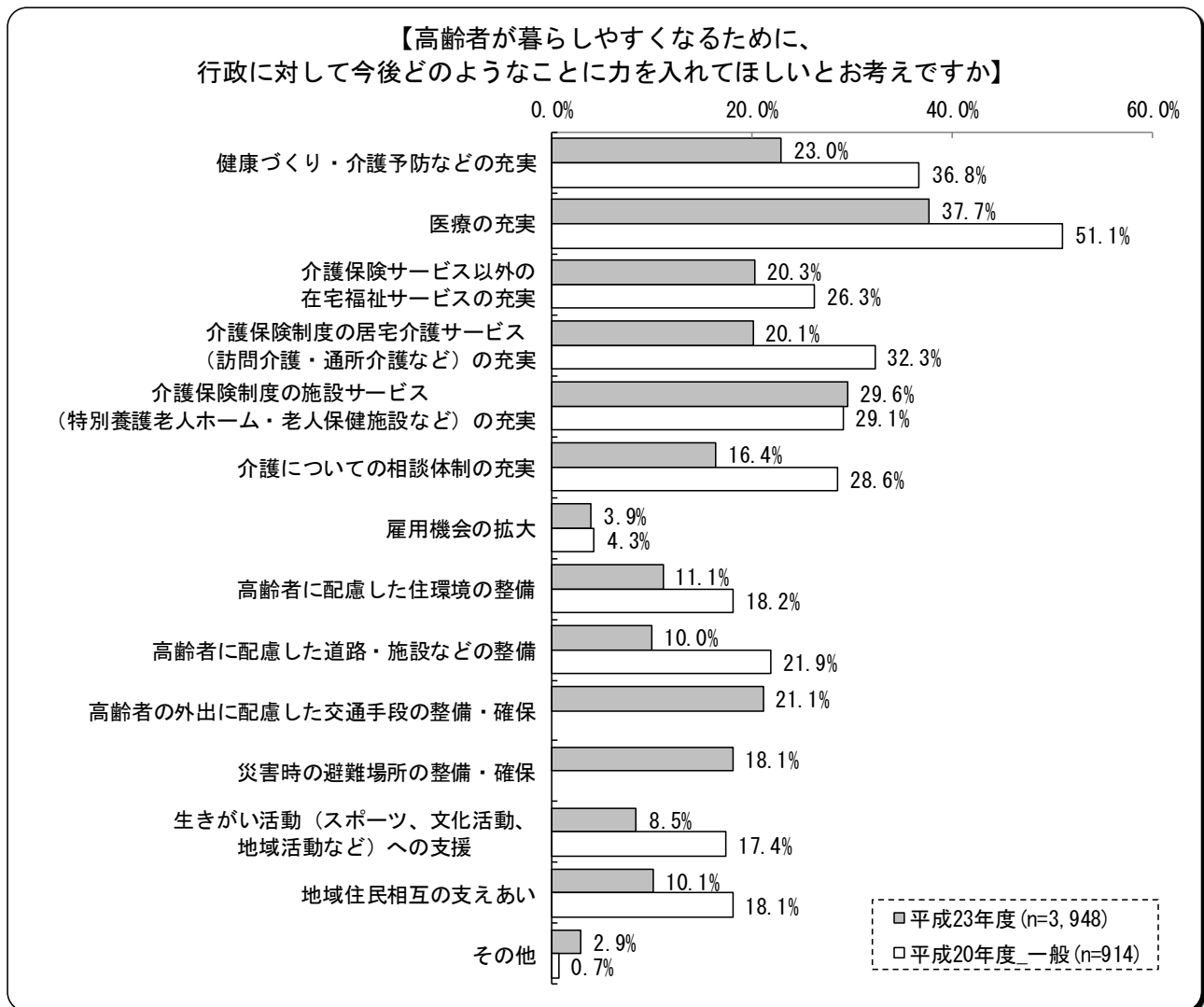
「知っている」と答えた方を圏域別にみると、川西圏域（38.2%）、川東圏域（27.4%）、上部西圏域（24.2%）、上部東圏域（32.6%）となっています。



⑫今後、行政に力を入れてほしいこと

高齢者が暮らしやすくなるために、行政に対して今後どのようなことに力を入れてほしいと考えているかたずねると、「医療の充実」と答えた方が 37.7%と最も多くなっています。次いで、「介護保険制度の施設サービス（特別養護老人ホーム・老人保健施設など）の充実」29.6%、「健康づくり・介護予防などの充実」23.0%と答えた方が多くなっています。

また、平成 20 年度に一般高齢者を対象に実施したニーズ調査の結果と比較すると、今年度は 2 項目（※参照）追加したこともあり、ほぼ全項目で平成 20 年度を下回っています。



※選択肢のうち、「高齢者の外出に配慮した交通手段の整備・確保」「災害時の避難場所の整備・確保」については、平成 23 年度のニーズ調査のみ追加した項目となります。

圏域別にみても、1位・2位は全体同様の結果となっていますが、3位に川西圏域・上部東圏域は「健康づくり・介護予防などの充実」、川東圏域・上部西圏域は「高齢者の外出に配慮した交通手段の整備・確保」となっています。

	1位	2位	3位
川西 (n=914)	医療の充実	介護保険制度の施設サービス (特別養護老人ホーム・老人 保健施設など)の充実	健康づくり・介護予防 などの充実
川東 (n=1,164)	医療の充実	介護保険制度の施設サービス (特別養護老人ホーム・老人 保健施設など)の充実	高齢者の外出に配慮し た交通手段の整備・確 保
上部西 (n=796)	医療の充実	介護保険制度の施設サービス (特別養護老人ホーム・老人 保健施設など)の充実	高齢者の外出に配慮し た交通手段の整備・確 保
上部東 (n=1,074)	医療の充実	介護保険制度の施設サービス (特別養護老人ホーム・老人 保健施設など)の充実	健康づくり・介護予防 などの充実

【その他の意見】

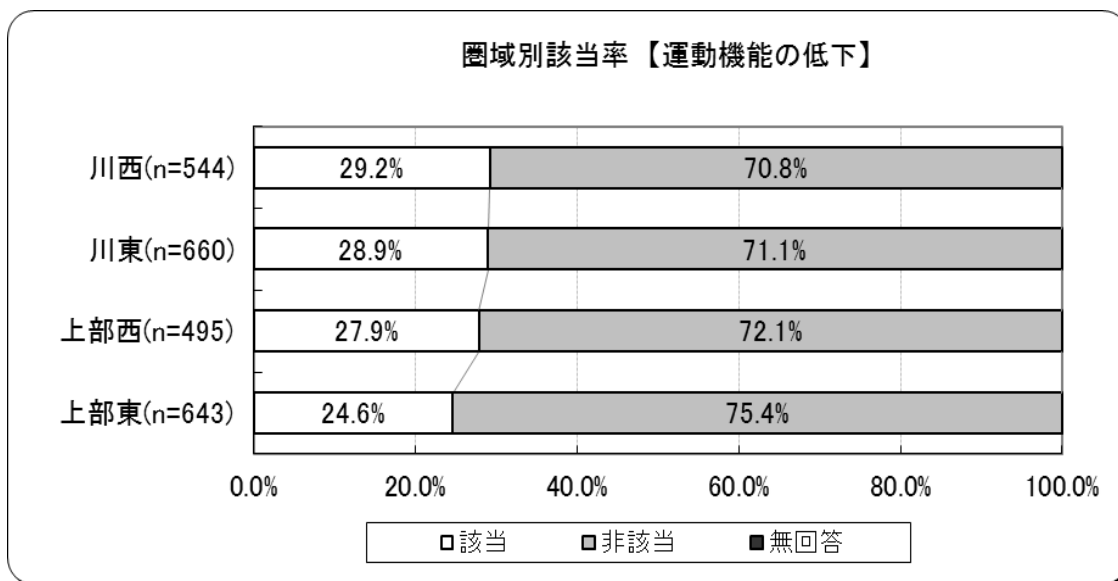
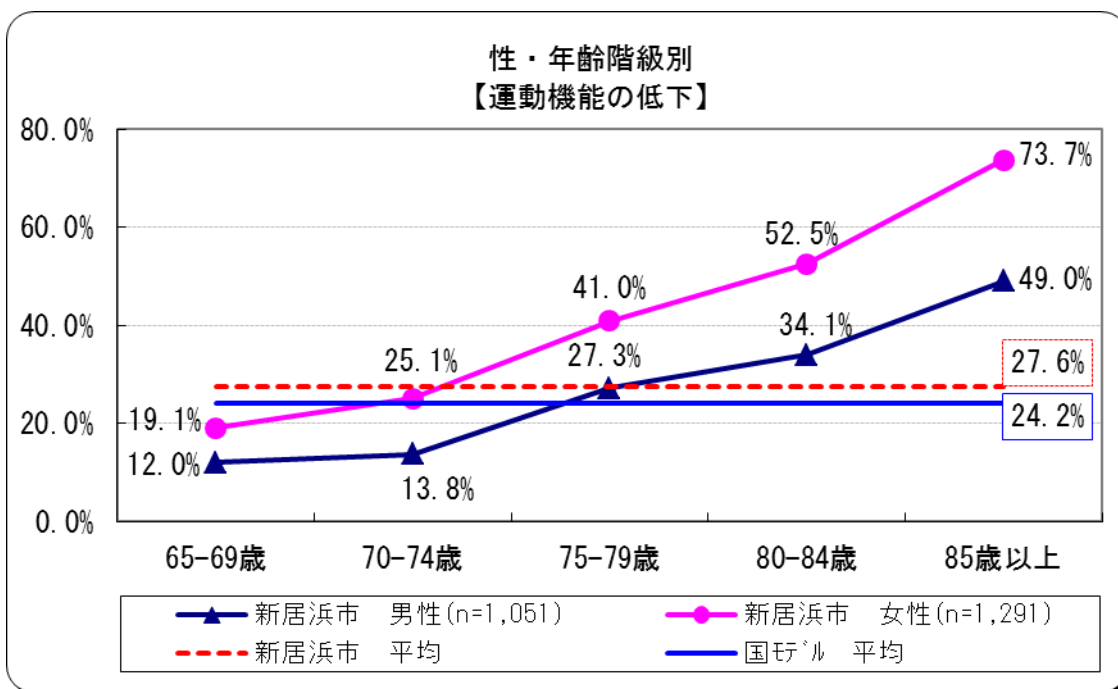
- ・ 75歳以上の健診実施
 - ・ 食材の配達サービス
 - ・ 地域で集まって話をできるような場所がほしい
 - ・ 独居老人の社会参加支援
 - ・ コミュニティーバスの運行
- 等

⑬運動機能の低下について(基本チェックリスト)

基本チェックリスト判定に基づく運動機能の低下の評価結果をみると、新居浜市平均は27.6%の該当率となっており、国モデル事業の平均値24.2%を3.4%上回っています。

性・年齢階級別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて運動機能が低下傾向となっており、男性は85歳以上(49.0%)、女性は85歳以上(73.7%)で運動機能が低下している方が最も多いことがわかります。また、どの年齢階級においても、男性より女性の運動機能が低いことがわかります。

圏域別にみると、川西圏域が29.2%、川東圏域が28.9%、上部西圏域が27.9%、上部東圏域が24.6%となっており、川西圏域に運動機能が低下している方が多くなっています。



※認定者除く

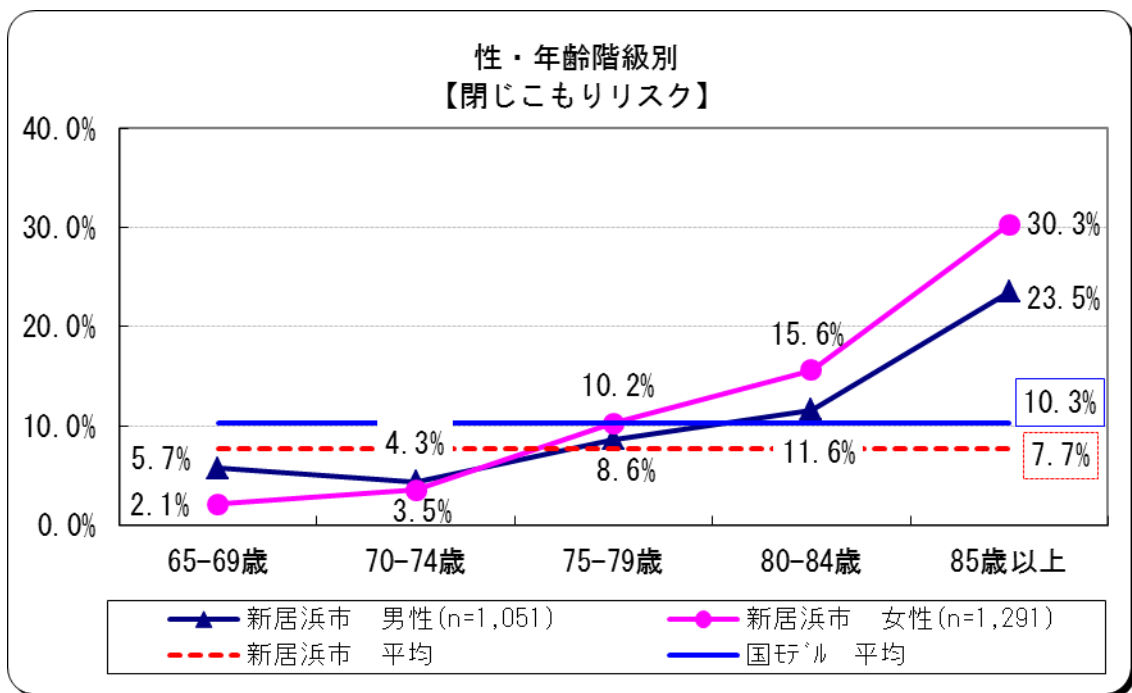
※国モデル事業とは、平成22年5月14日～8月18日の間に行われた、全国57保険者(35,910人)を対象、有効回答30,493人、有効回答率87.0%が行った調査結果となります。(以下同様)

⑭閉じこもりリスクについて(基本チェックリスト)

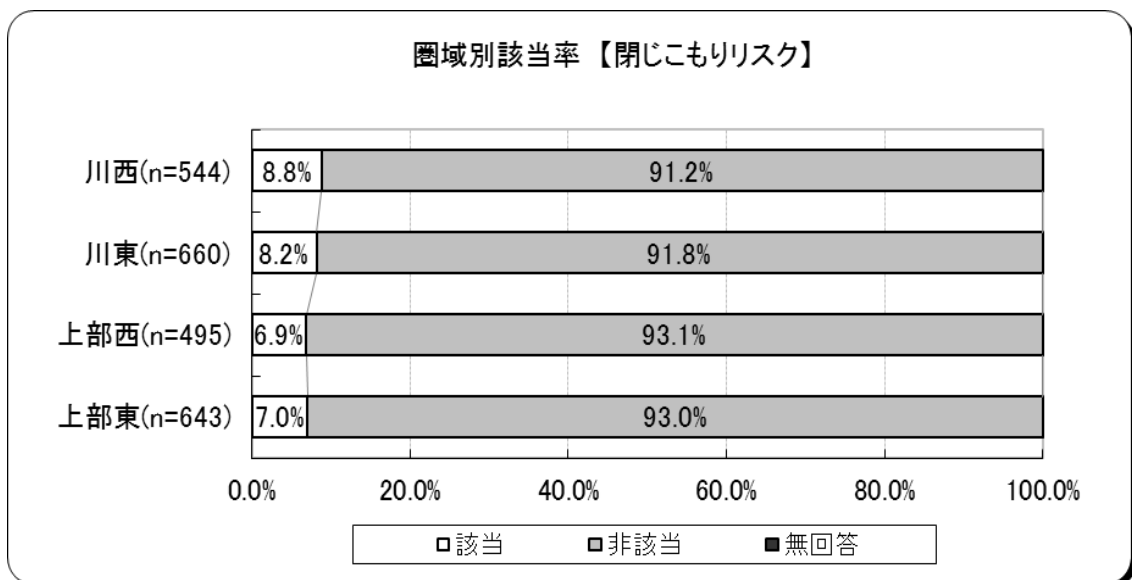
基本チェックリスト判定に基づく閉じこもりリスクの評価結果をみると、新居浜市平均は7.7%の該当率となっており、国モデル事業の平均値10.3%を2.6%下回っています。

性・年齢階級別にみると、男性(70-74歳除く)・女性ともに年齢が上がるにつれて閉じこもり傾向となっており、男性は85歳以上(23.5%)、女性は85歳以上(30.3%)となっています。また、65-74歳では女性より男性、75歳以上では男性より女性の閉じこもりリスクが高いことがわかります。

圏域別にみると、川西圏域が8.8%、川東圏域が8.2%、上部西圏域が6.9%、上部東圏域が7.0%となっており、圏域による該当率の差はあまりみられませんでした。



※認定者除く

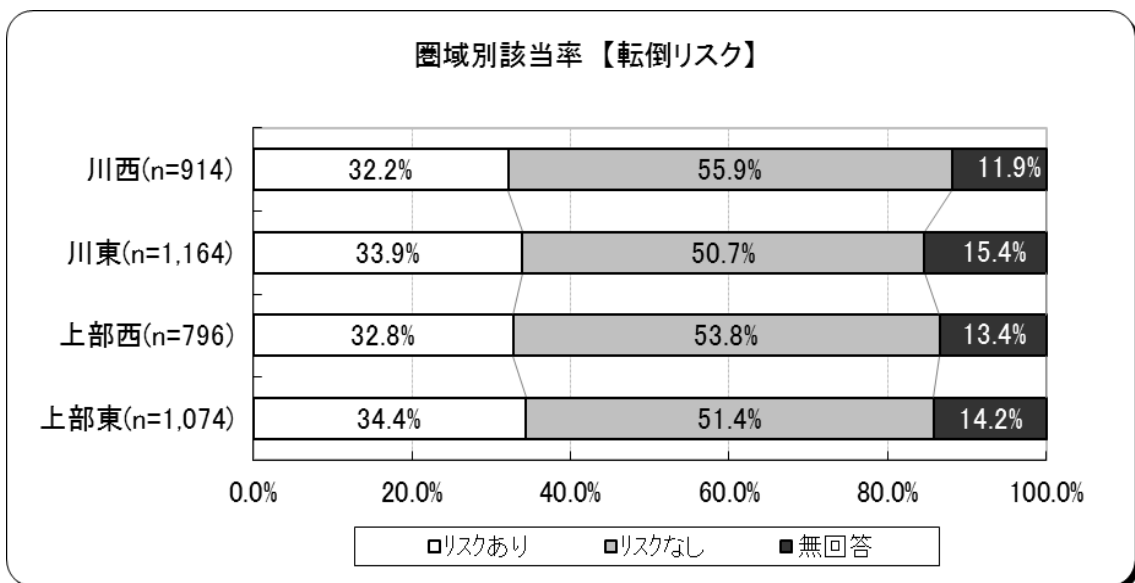
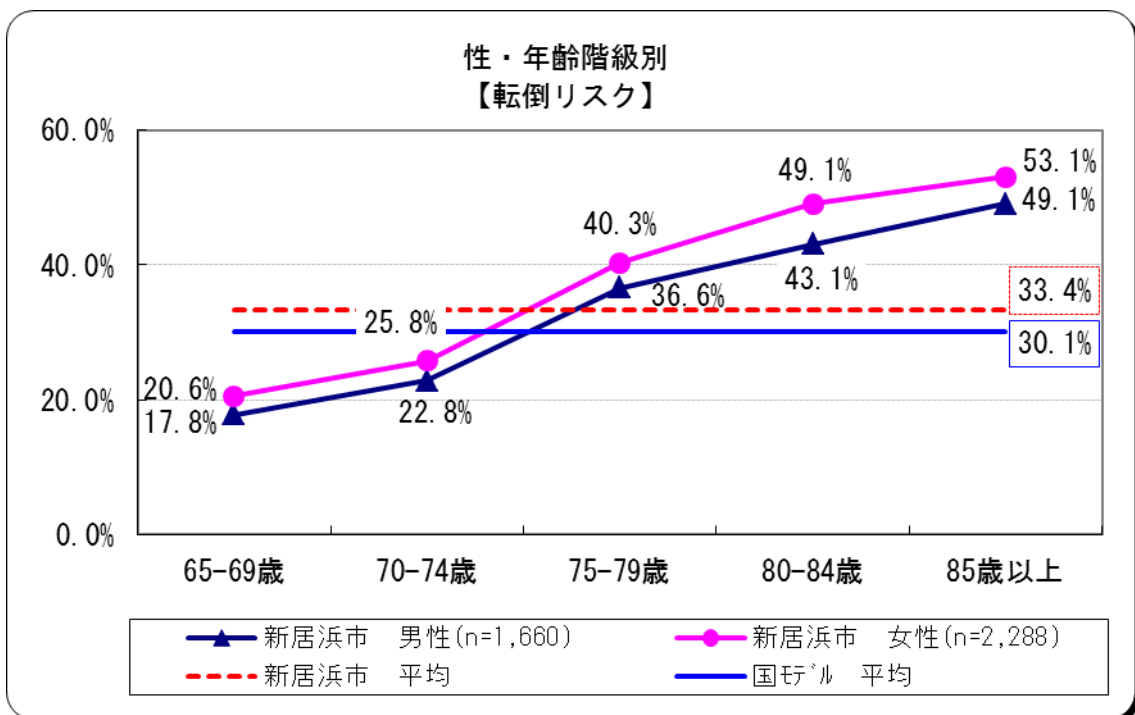


⑮転倒リスクについて(基本チェックリスト)

基本チェックリスト判定等に基づく転倒リスクの評価結果をみると、新居浜市平均は33.4%となっており、国モデル事業の平均値30.1%を3.3%上回っています。

性・年齢階級別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて転倒リスクが高くなっており、男性は85歳以上(49.1%)、女性は85歳以上(53.1%)となっています。また、どの年齢階級においても、男性より女性の転倒リスクが高いことがわかります。

圏域別にみると、川西圏域が32.2%、川東圏域が33.9%、上部西圏域が32.8%、上部東圏域が34.4%となっており、上部東圏域に転倒リスクの高い方が多くなっています。

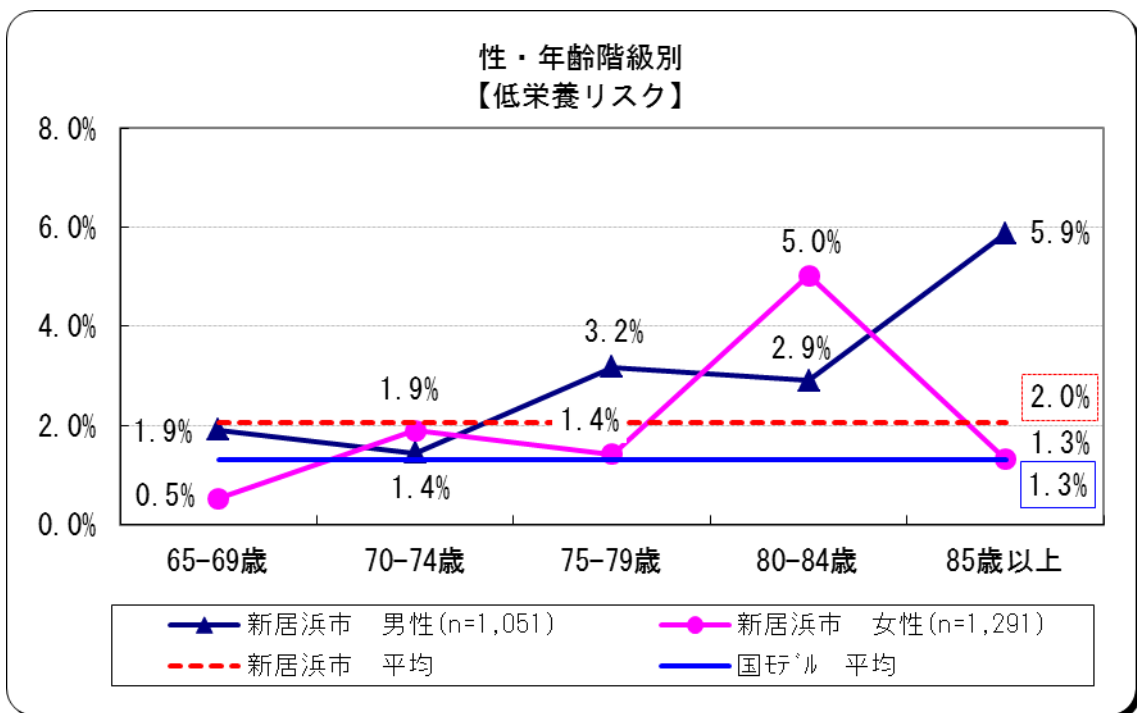


⑯低栄養リスクについて(基本チェックリスト)

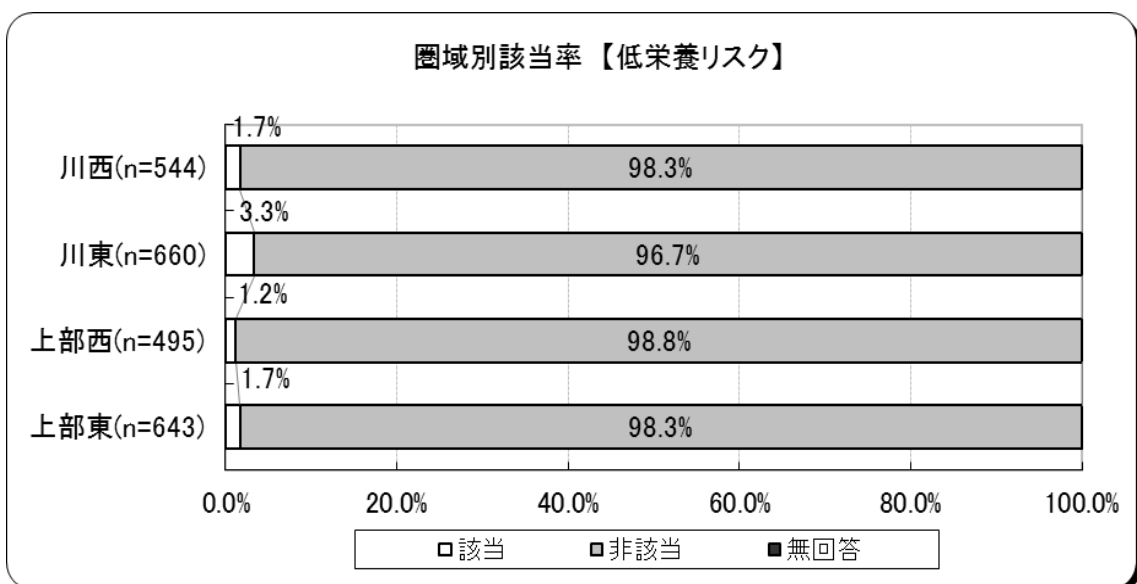
基本チェックリスト判定に基づく低栄養リスクの評価結果をみると、新居浜市平均は2.0%の該当率となっており、国モデル事業の平均値1.3%を0.7%上回っています。

性・年齢階級別にみると、男性は85歳以上(5.9%)、女性は80-84歳(5.0%)において低栄養の方が最も高くなっていますが、どの性・年齢階級も低栄養リスクのある方は6%未満と少なくなっています。

圏域別にみても、川西圏域が1.7%、川東圏域が3.3%、上部西圏域が1.2%、上部東圏域が1.7%と、どの圏域も低栄養の方は少なくなっています。



※認定者除く

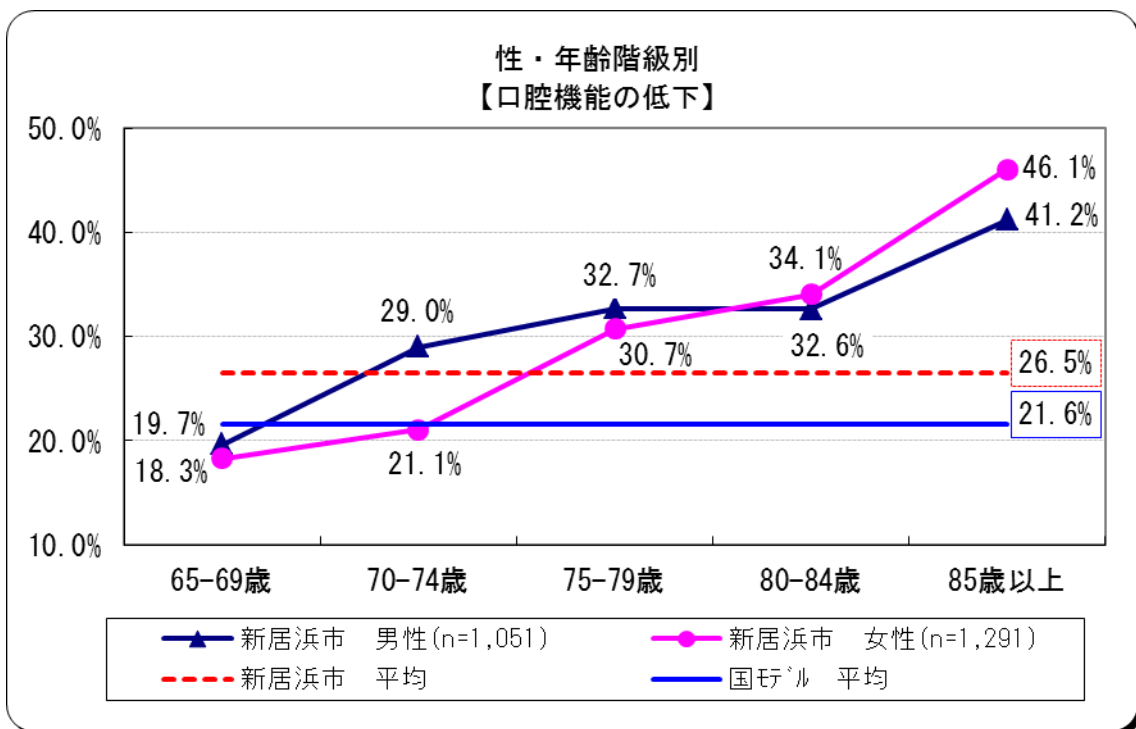


⑰口腔機能の低下について(基本チェックリスト)

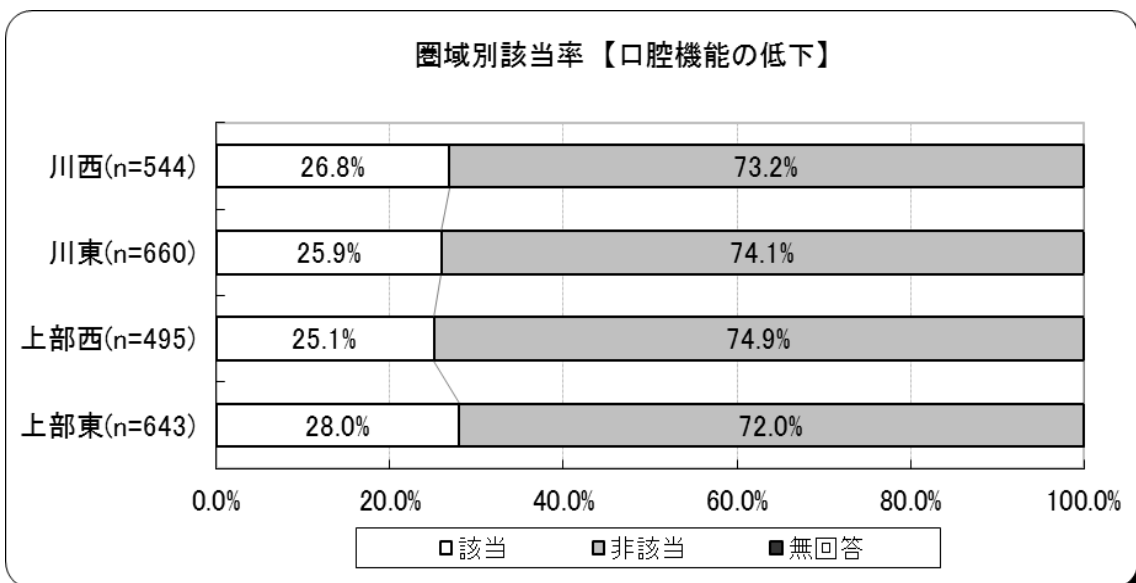
基本チェックリスト判定に基づく口腔機能の低下の評価結果をみると、新居浜市平均は26.5%の該当率となっており、国モデル事業の平均値21.6%を4.9%上回っています。

性・年齢階級別にみると、男性(80-84歳除く)・女性ともに年齢が上がるにつれて口腔機能が低下傾向となっており、男性は85歳以上(41.2%)、女性は85歳以上(46.1%)となっています。65-79歳では女性より男性、80歳以上では男性より女性に口腔機能が低下している方が多くなっています。

圏域別にみると、川西圏域が26.8%、川東圏域が25.9%、上部西圏域が25.1%、上部東圏域が28.0%となっており、上部東圏域に口腔機能が低下している方が多くなっています。



※認定者除く



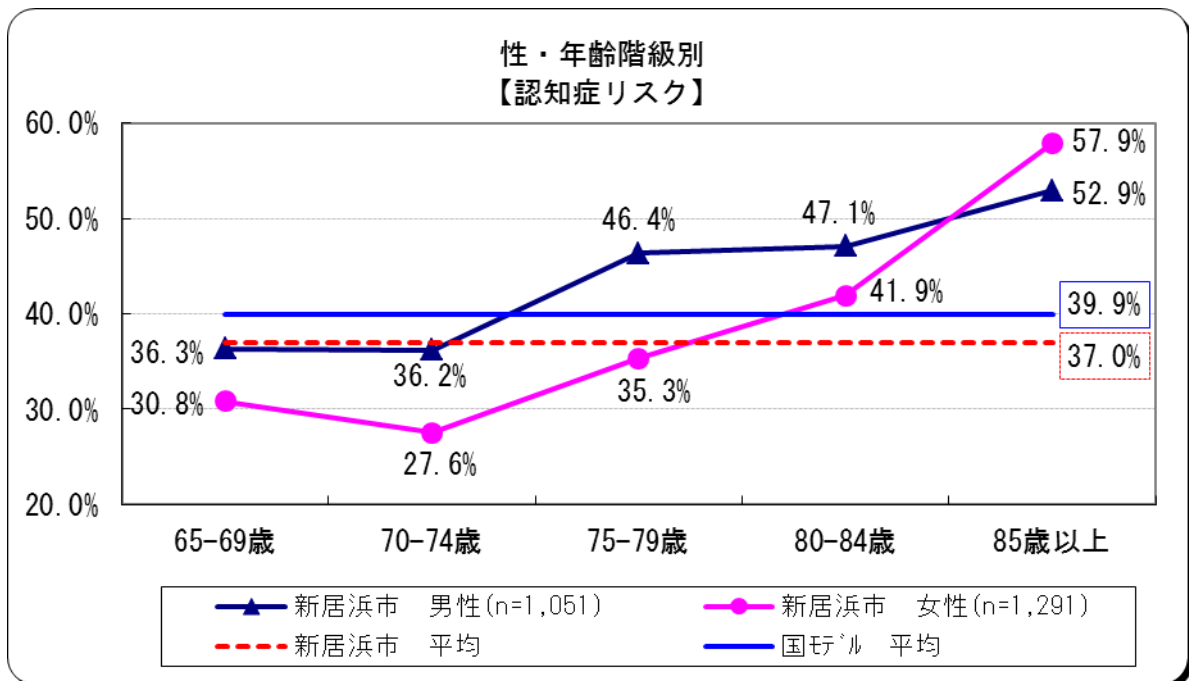
⑱認知症リスクについて(基本チェックリスト)

基本チェックリスト判定に基づく認知症リスクの評価結果をみると、新居浜市平均は37.0%の該当率となっており、国モデル事業の平均値39.9%を2.9%下回っています。

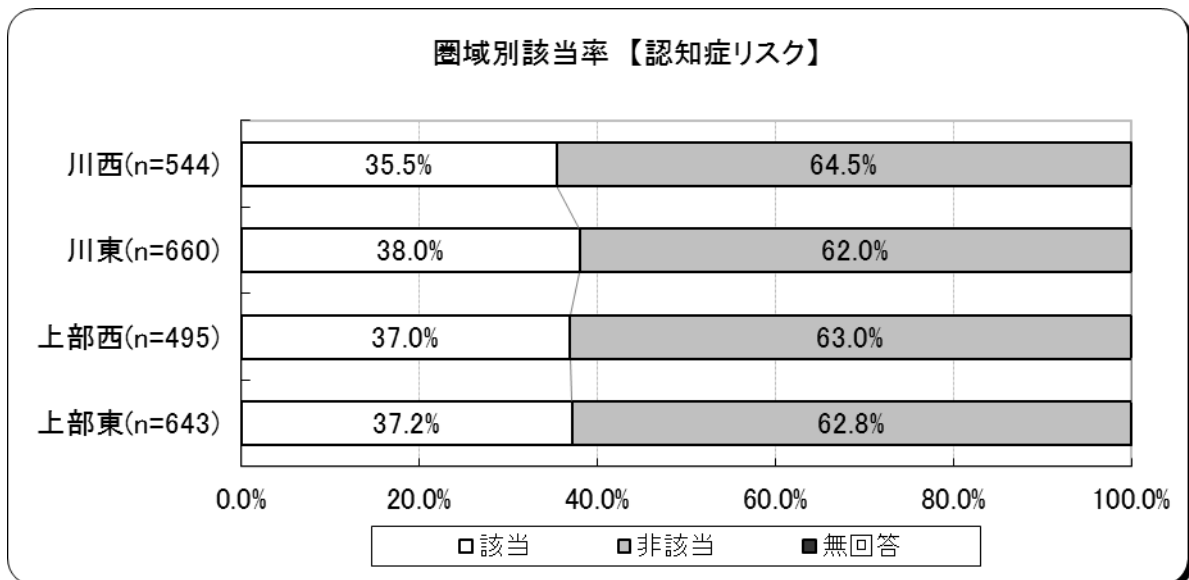
性・年齢階級別にみると、男性・女性ともに70歳から年齢が上がるにつれて認知症リスクが増加傾向となっており、85歳以上では、男性(52.9%)、女性(57.9%)と5割以上の方に認知能力の低下がみられます。

また、85歳以上を除くと、どの年齢階級においても、女性より男性の認知症リスクが高いことがわかります。

圏域別にみると、川西圏域が35.5%、川東圏域が38.0%、上部西圏域が37.0%、上部東圏域が37.2%となっており、川東圏域に認知症リスクの高い方が多くなっています。



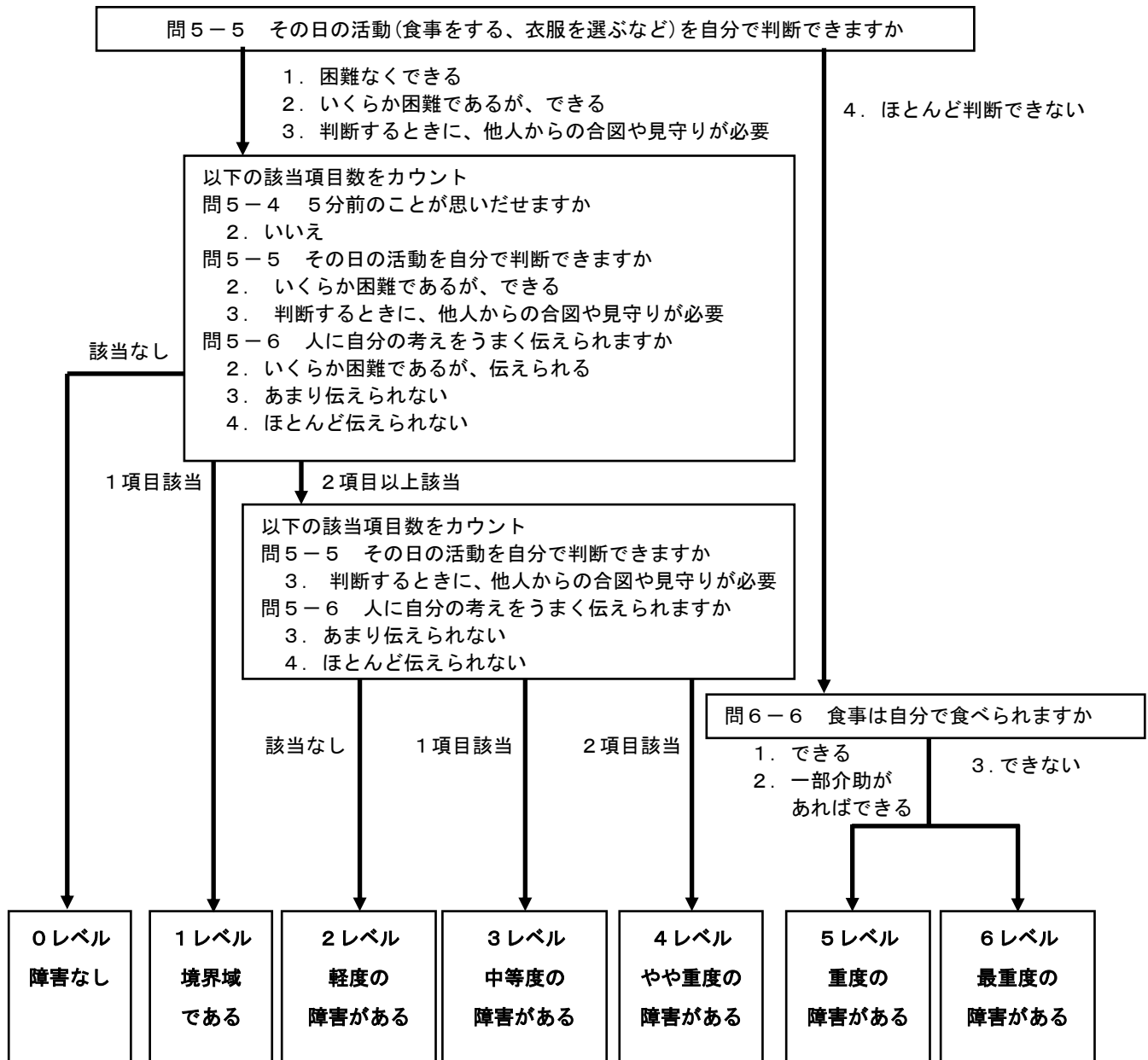
※認定者除く



⑱認知機能障害程度(CPS)認知症リスクについて

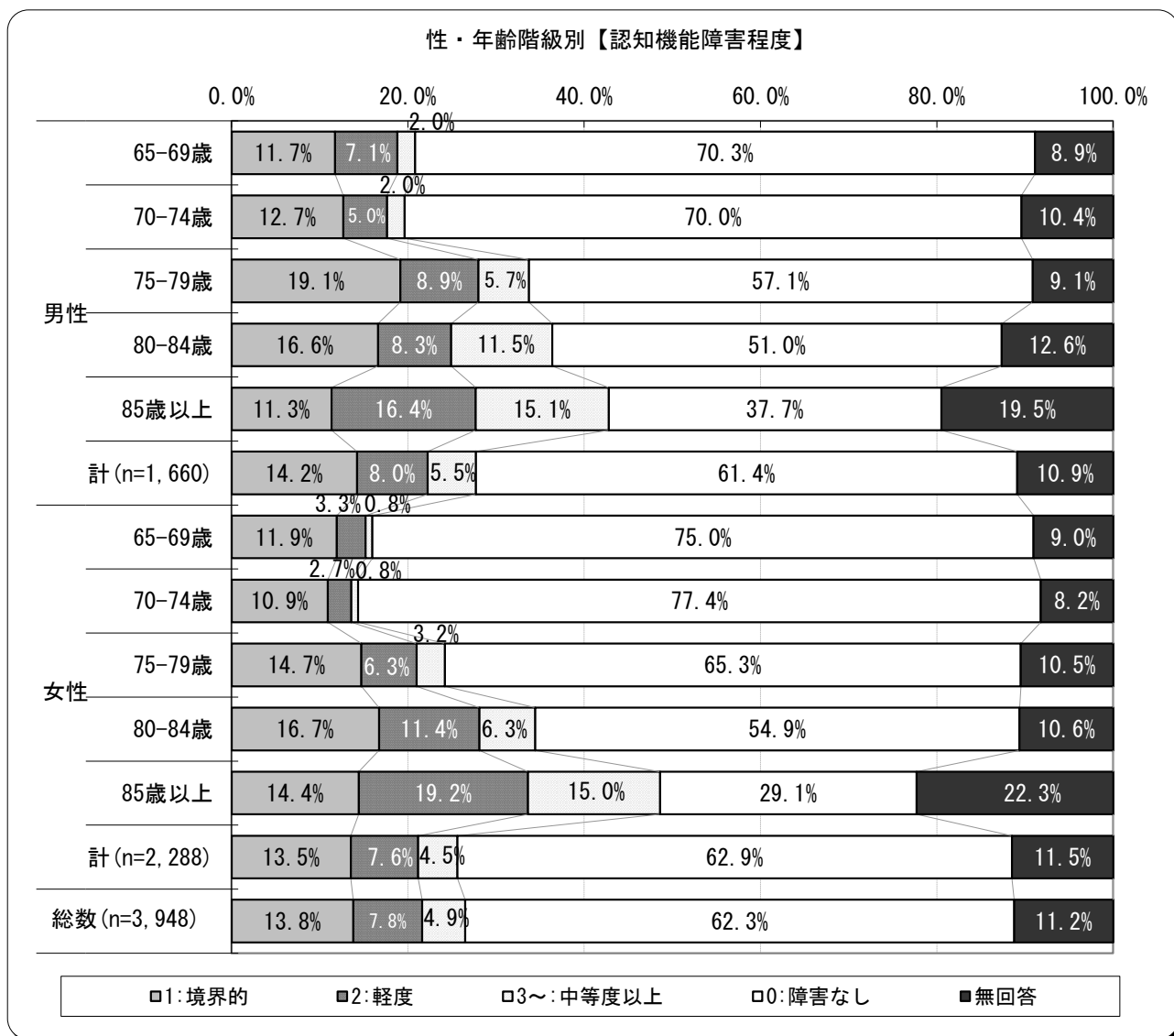
今回の調査には、認知機能の障害程度の指標が設けられています。

設問に対する回答内容により、0レベル（障害なし）から6レベル（最重度の障害がある）まで評価可能となっています。

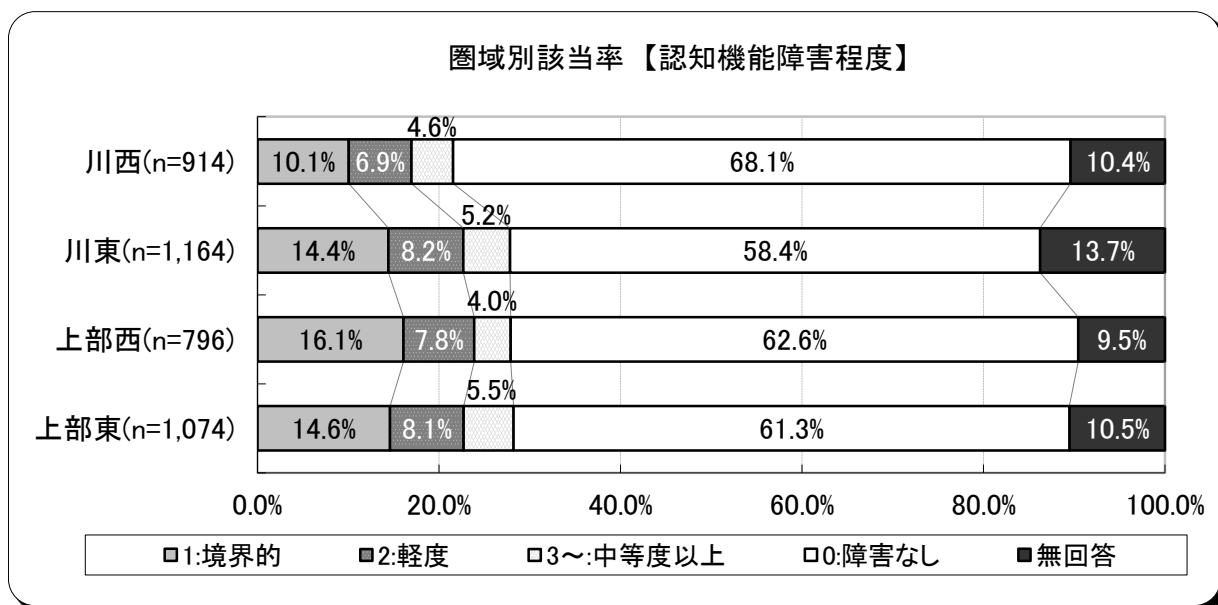


認知機能障害程度（CPS）の評価結果をみると、1レベル以上の障害程度と評価されるリスク者の割合は、全体で26.5%となっています。

性・年齢階級別にみると、男性・女性ともに70-74歳を除くと年齢が上がるにつれて1レベル以上の認知機能障害程度と評価されるリスク者が増加傾向となっており、85歳以上を除くとどの年齢階級においても女性より男性が多くなっています。



圏域別にみると、川西圏域が 21.6%、川東圏域が 27.8%、上部西圏域が 27.9%、上部東圏域が 28.2%となっており、上部東圏域に 1 レベル以上の認知機能障害程度と評価されるリスク者が多くなっています。

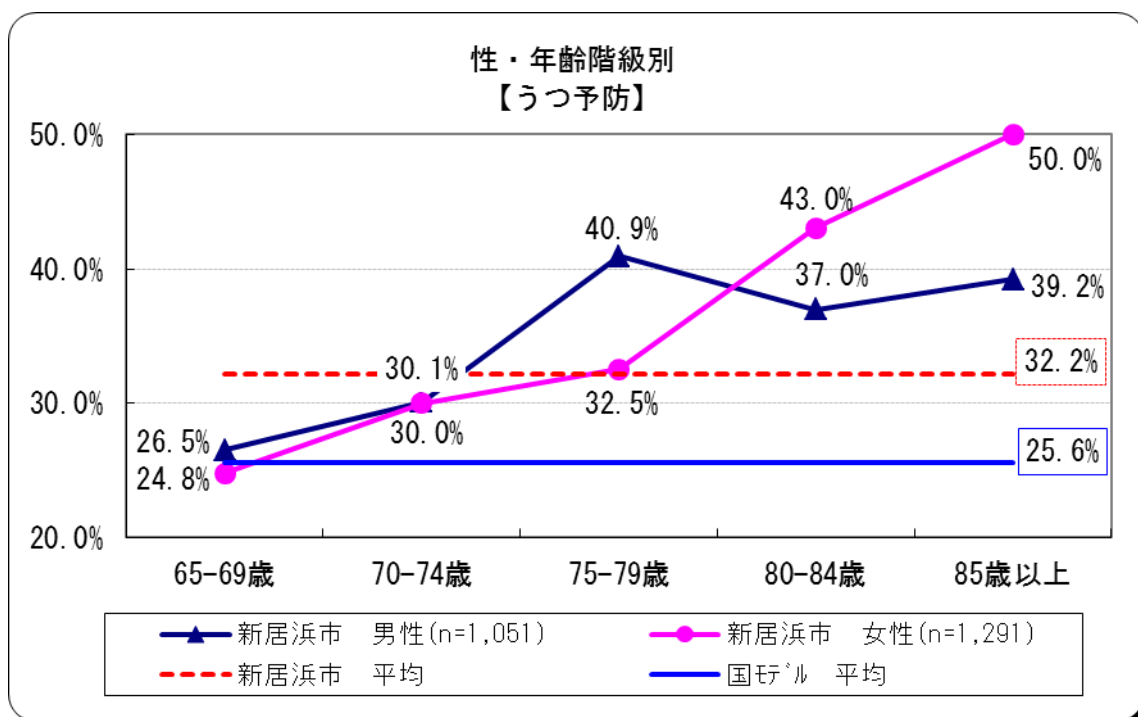


②うつ予防について(基本チェックリスト)

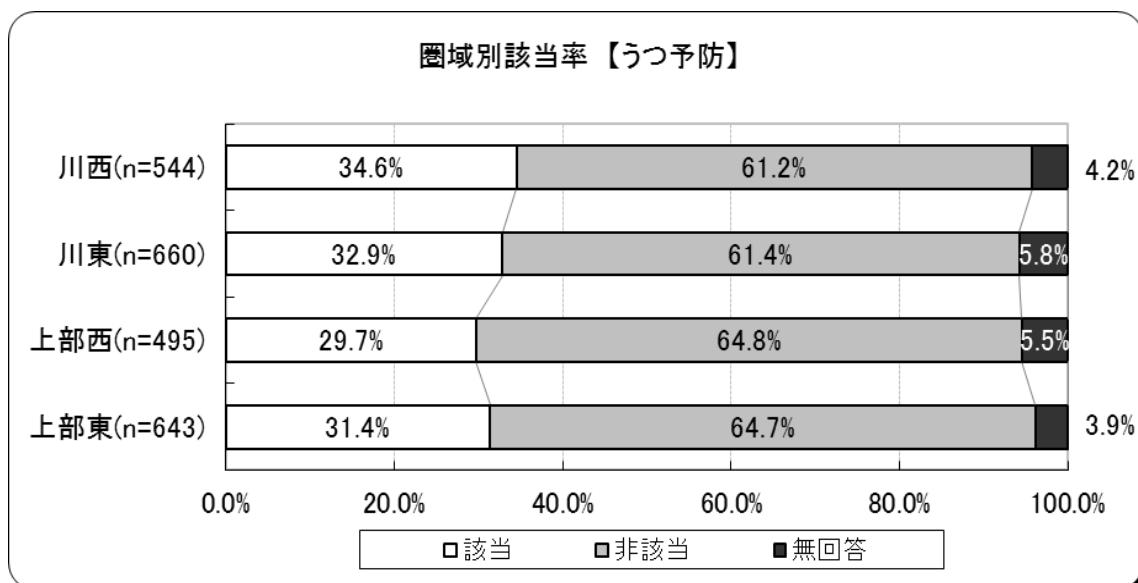
基本チェックリスト判定に基づく、うつ予防の評価結果をみると、新居浜市平均は32.2%の該当率となっており、うつリスクは国モデル事業の平均値25.6%を6.6%上回っています。

性・年齢階級別にみると、男性(80歳以上除く)・女性ともに年齢が上がるにつれてうつリスクが高くなっており、男性は75-79歳(40.9%)、女性は85歳以上(50.0%)となっています。年齢が上がるにつれて女性のうつリスクが高まっていることがわかります。

圏域別にみると、川西圏域が34.6%、川東圏域が32.9%、上部西圏域が29.7%、上部東圏域が31.4%となっており、川西圏域にうつリスクの高い方が多くなっています。



※認定者除く

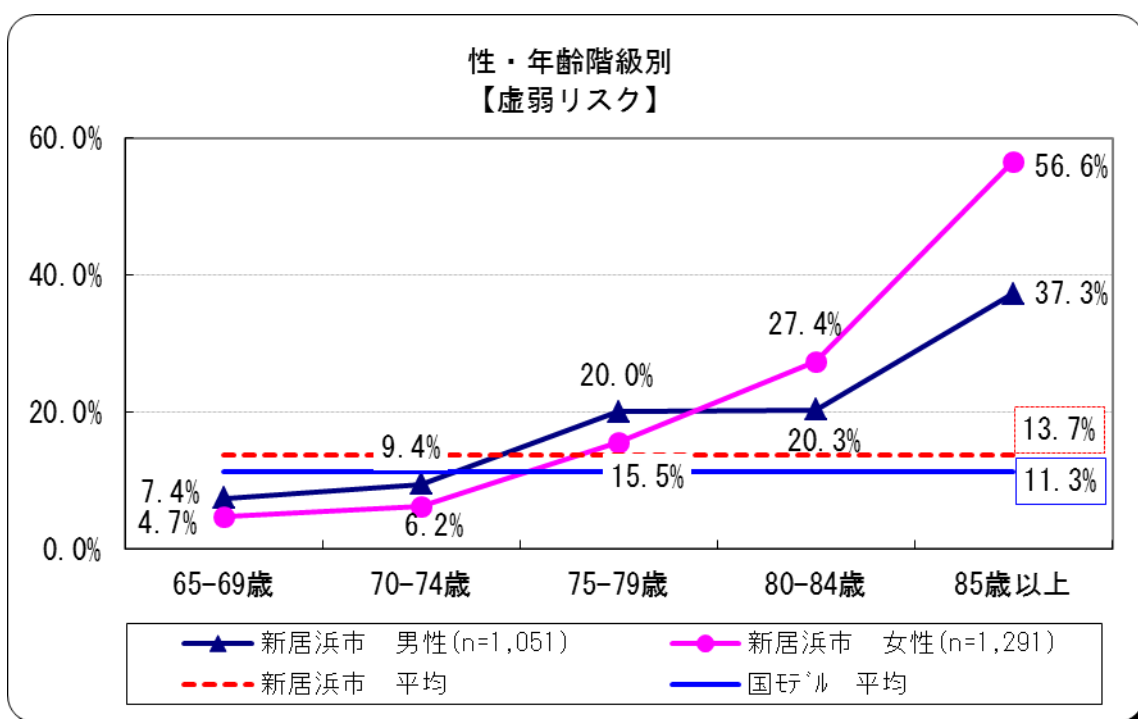


虚弱リスクについて(基本チェックリスト)

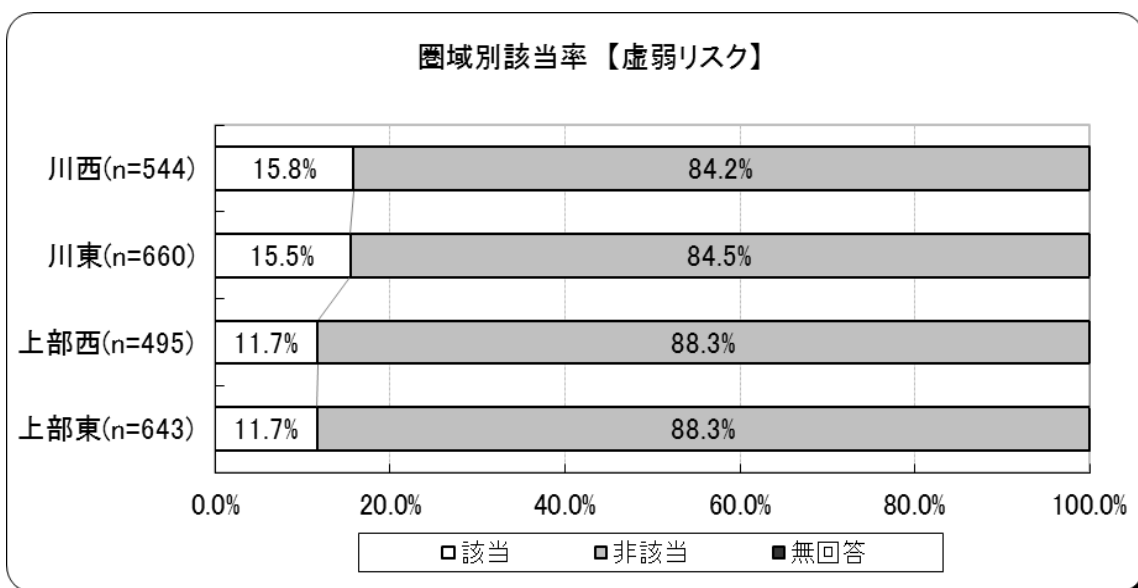
基本チェックリスト判定に基づく、虚弱リスクの評価結果をみると、新居浜市平均は13.7%の該当率となっており、国モデル事業の平均値11.3%を2.4%上回っています。

性・年齢階級別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて虚弱リスクのある方が増加しており、男性は85歳以上(37.3%)、女性は85歳以上(56.6%)となっています。65歳から79歳では女性より男性、80歳以上では男性より女性の虚弱リスクの高い方が多いことがわかります。

圏域別にみると、川西圏域が15.8%、川東圏域が15.5%、上部西圏域が11.7%、上部東圏域が11.7%となっており、川西圏域に虚弱リスクの高い方が多いことがわかります。



※認定者除く



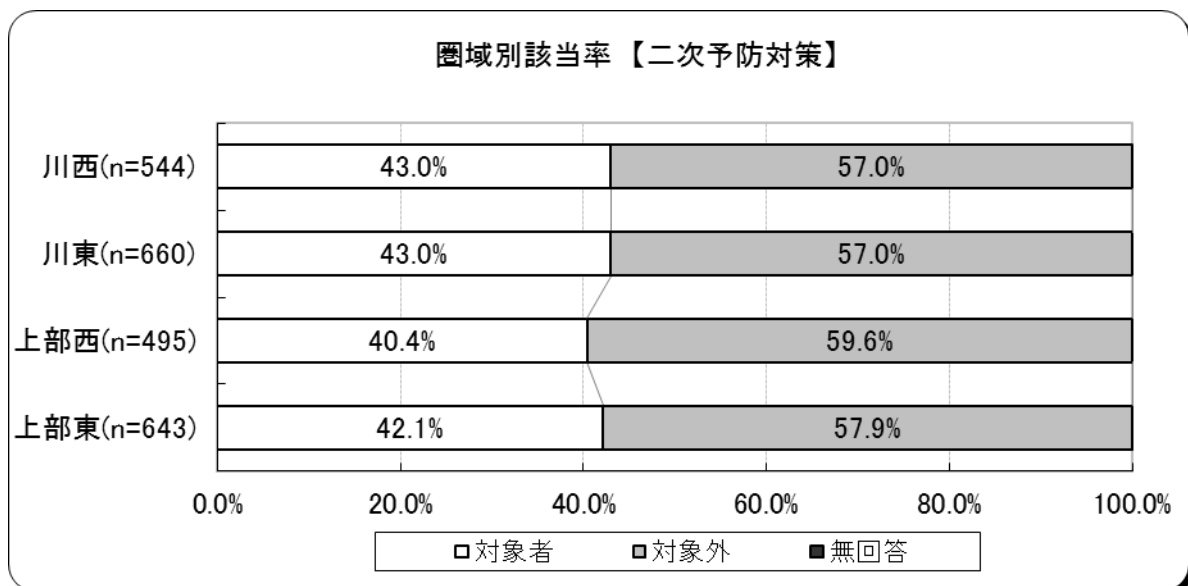
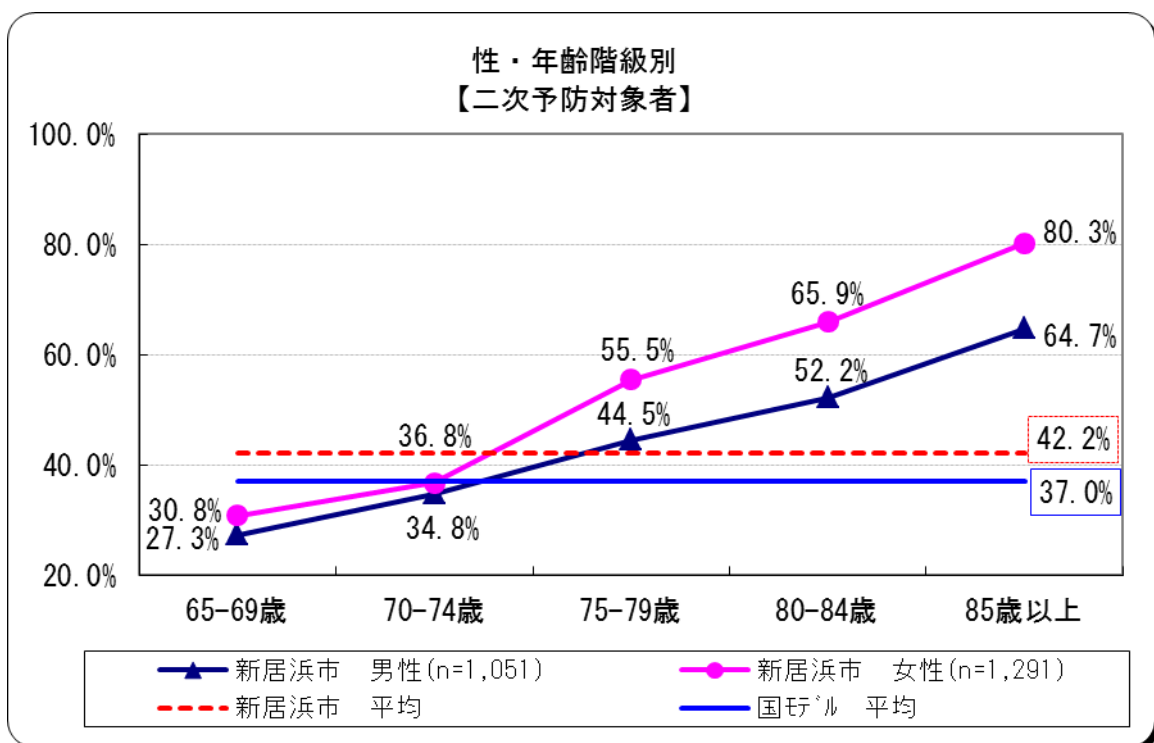
二次予防事業(介護予防事業)対象者について

基本チェックリスト判定に基づく、二次予防対象者の評価結果をみると、新居浜市平均は42.2%の該当率となっており、二次予防対象者の出現率は国モデル事業の平均値37.0%を5.2%上回っています。

性・年齢階級別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて二次予防対象者の出現率が高くなっており、男性は85歳以上(64.7%)、女性は85歳以上(80.3%)となっています。

また、どの年齢階級においても、男性より女性の二次予防対象者の出現率が高くなっています。

圏域別にみると、川西圏域が43.0%、川東圏域が43.0%、上部西圏域が40.4%、上部東圏域が42.1%となっており、川西圏域・川東圏域に二次予防の対象者が多くなっています。



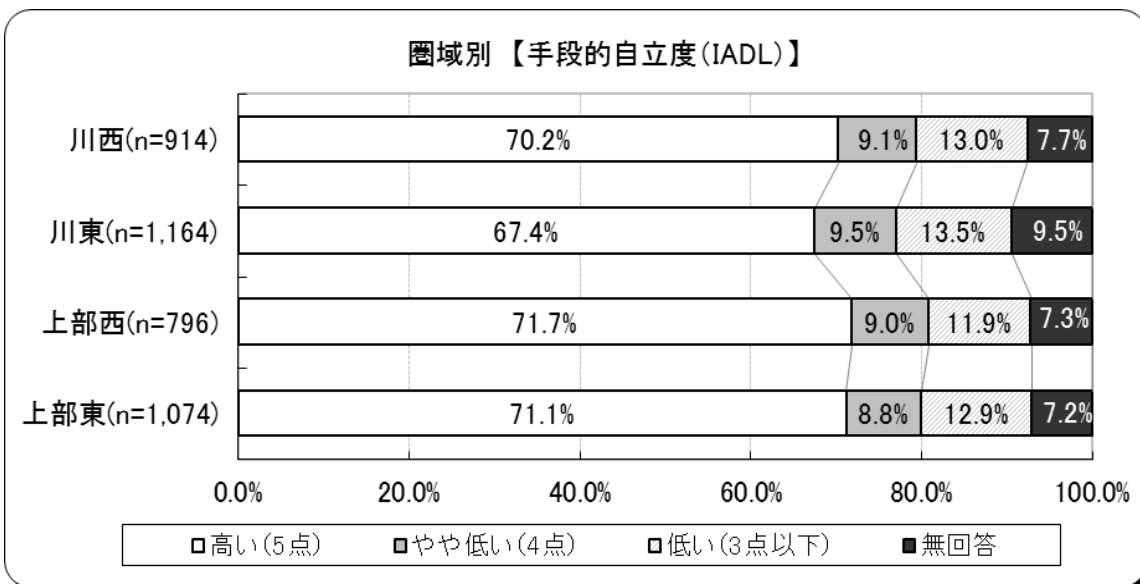
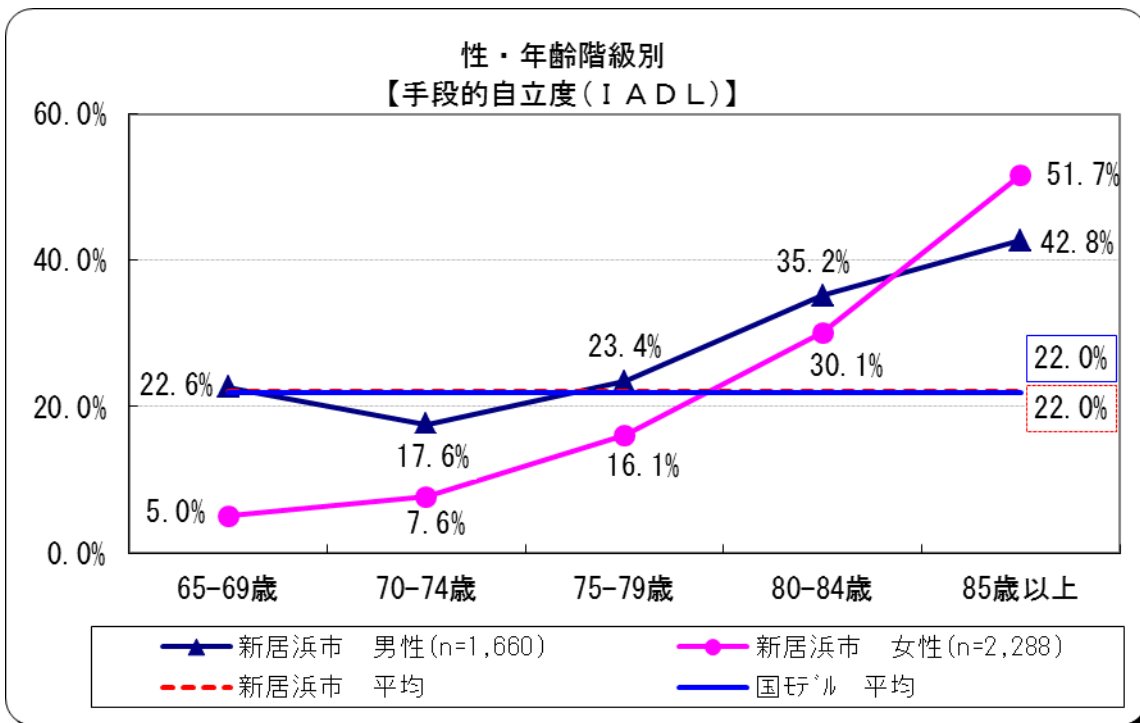
手段的自立度(IADL)について

手段的自立度（IADL）の評価結果をみると、4点以下を低下者とした場合、新居浜市平均は22.0%の該当率となっており、国モデル事業の平均値22.0%と同率となっています。

性・年齢階級別にみると、男性（70-74歳除く）・女性ともに年齢が上がるにつれて手段的自立度（IADL）の低い方が多くなっており、男性は85歳以上（42.8%）、女性は85歳以上（51.7%）となっています。

また、85歳以上を除くとどの年齢階級においても、女性より男性に手段的自立度（IADL）の低い方が多くなっています。

圏域別にみると、川西圏域が22.1%、川東圏域が23.0%、上部西圏域が20.9%、上部東圏域が21.7%となっており、川東圏域に手段的自立度（IADL）の低い方が多くなっています。



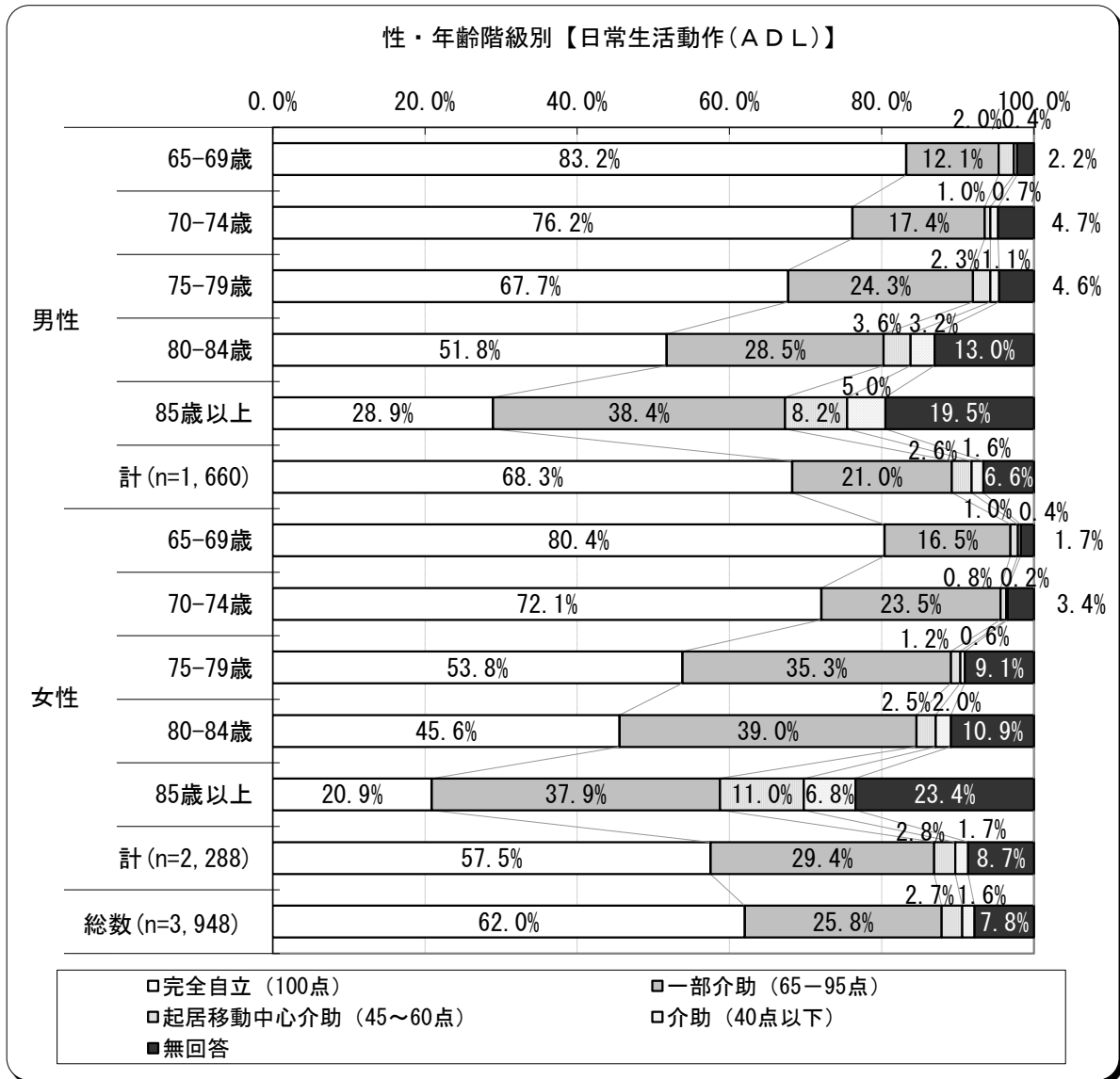
日常生活自立度(ADL)について

日常生活動作（ADL）に関する設問が、食事、移動、整容、トイレ動作、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便、排尿の10項目あり、各設問で自立を5～15点とし、10項目の合計が100点満点となるよう評価を行いました。

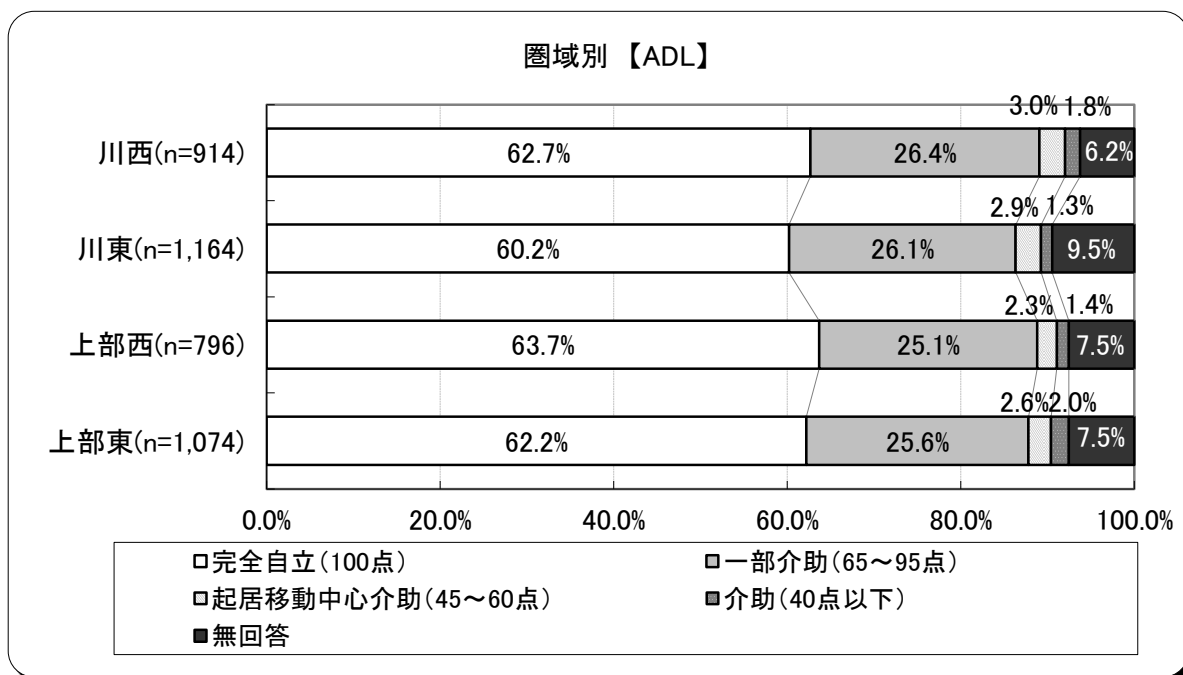
設問	選択肢	配点
①問6-6 食事は自分で食べられますか	「1.できるし、している」 「2.一部介助があればできる」 「3.できない」	10 5 0
②問6-7 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか	「1.受けない」 「2.一部介助があればできる」 「3.全面的な介助が必要」（問6-8の回答が「1,2」） 「3.全面的な介助が必要」（問6-8の回答が「3」）	15 10 5 0
③問6-9 自分で洗面や歯磨きができますか	「1.できる」 「2.一部介助があればできる」または「3.できない」	5 0
④問6-10 自分でトイレができますか	「1.できる」 「2.一部介助があればできる」 「3.できない」	10 5 0
⑤問6-11 自分で入浴ができますか	「1.できる」 「2.一部介助があればできる」または「3.できない」	5 0
⑥問6-12 50m以上歩けますか	「1.できる」 「2.一部介助があればできる」 「3.できない」	15 10 0
⑦問6-13 階段を昇り降りできますか	「1.できる」 「2.介助があればできる」 「3.できない」	10 5 0
⑧問6-14 自分で着替えができますか	「1.できる」 「2.介助があればできる」 「3.できない」	10 5 0
⑨問6-15 大便の失敗がありますか	「1.ない」 「2.ときどきある」 「3.よくある」	10 5 0
⑩問6-16 尿もれや尿失禁がありますか	「1.ない」 「2.ときどきある」 「3.よくある」	10 5 0

日常生活動作（ADL）の状況をみると、全体では、完全自立（100点）は62.0%となっており、約3割の方が介助の必要な状況となっています。

性・年齢階級別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるほど完全自立が減少傾向となっており、85歳以上で男性は約3割、女性は約2割となっています。一部介助でも同様の傾向がみられ、男性・女性ともに年齢が上がるほど増加傾向となっています。



圏域別に完全自立の該当率をみると、川西圏域が 62.7%、川東圏域が 60.2%、上部西圏域が 63.7%、上部東圏域が 62.2%となっており、上部西圏域に完全自立の方が多く、川西圏域に介助が必要な方が多くなっています。



国モデル事業の平均値との比較一覧表

ページ 番号	調査項目	(A)	(B)	(A)-(B)	圏域別の状況			
		市全体	国平均		川西 圏域	川東 圏域	上部 西圏域	上部 東圏域
P21	運動機能の低下	27.6%	24.2%	3.4%	29.2%	28.9%	27.9%	24.6%
P22	閉じこもりリスク	7.7%	10.3%	-2.6%	8.8%	8.2%	6.9%	7.0%
P23	転倒リスク	33.4%	30.1%	3.3%	32.2%	33.9%	32.8%	34.4%
P24	低栄養リスク	2.0%	1.3%	0.7%	1.7%	3.3%	1.2%	1.7%
P25	口腔機能の低下	26.5%	21.6%	4.9%	26.8%	25.9%	25.1%	28.0%
P26	認知症リスク	37.0%	39.9%	-2.9%	35.5%	38.0%	37.0%	37.2%
P27	認知症機能障害程度(GPS)	26.5%	30.0%	-3.5%	21.6%	27.8%	27.9%	28.2%
P30	うつ予防	32.2%	25.6%	6.6%	34.6%	32.9%	29.7%	31.4%
P31	虚弱リスク	13.7%	11.3%	2.4%	15.8%	15.5%	11.7%	11.7%
P32	二次予防事業対象者	42.2%	37.0%	5.2%	43.0%	43.0%	40.4%	42.1%
P33	手段的自立度(IADL)	22.0%	22.0%	0.0%	22.1%	23.0%	20.9%	21.7%
P34	日常生活自立度(ADL)	62.0%			62.7%	60.2%	63.7%	62.2%

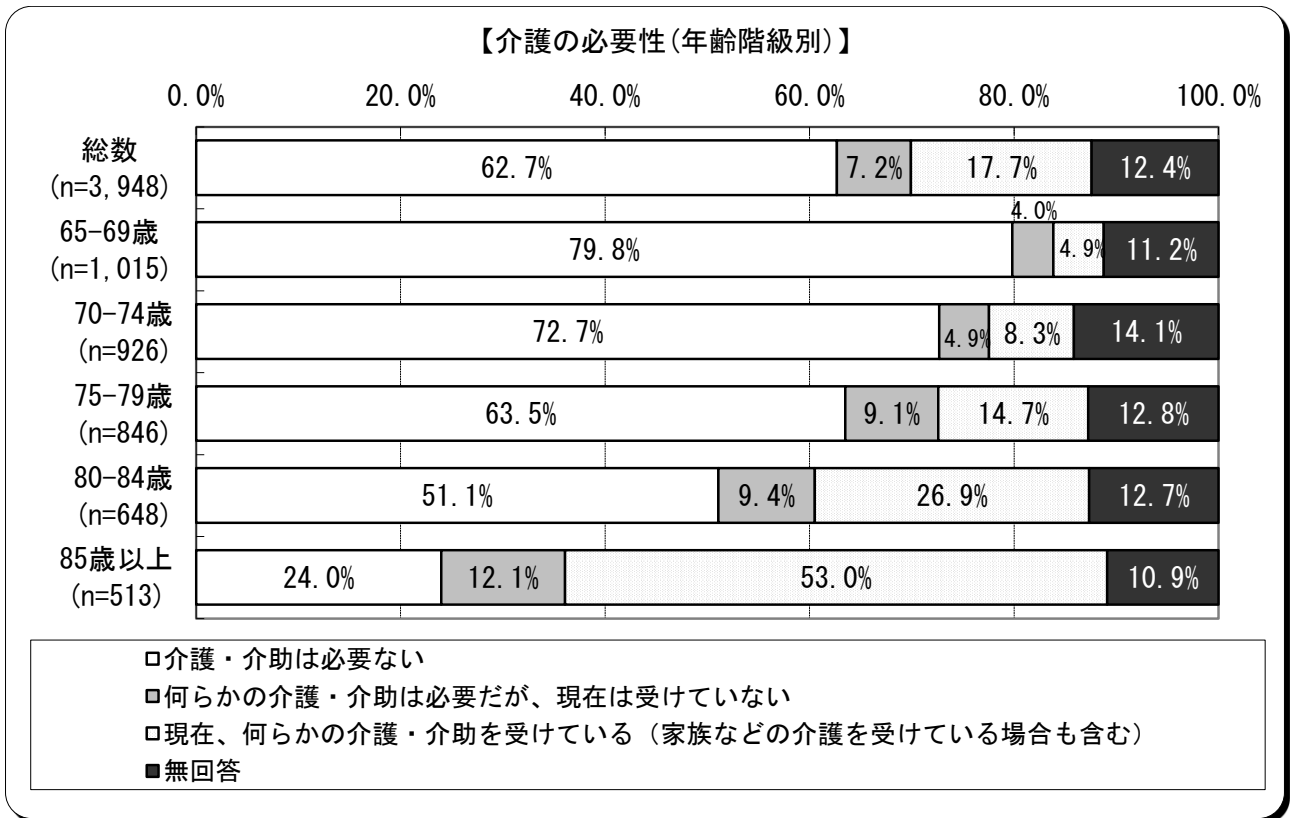
※国モデル事業とは、平成 22 年 5 月 14 日～8 月 18 日の間に行われた、全国57保険者 (35,910 人を対象、有効回答 30,493 人、有効回答率87.0%)が行った調査結果になります。

1 介護の状況

(1) 介護の必要性

介護の必要性についてみると、年齢が上がるにつれて「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」および「現在、何らかの介護・介助を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合を含む)」の割合が高くなっています。

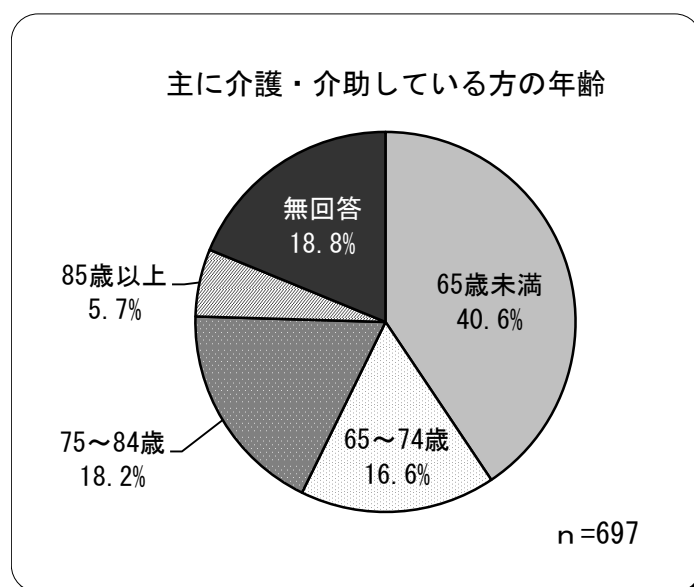
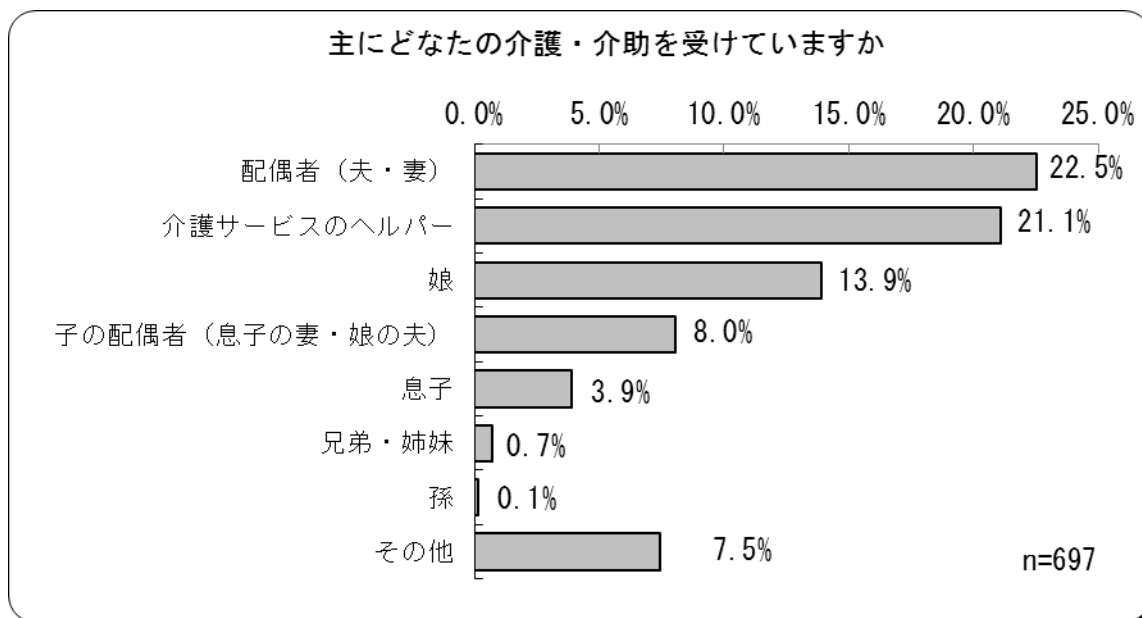
85歳以上では約6割の方が何らかの介護・介助が必要な状況となっています。



(2) 介護者

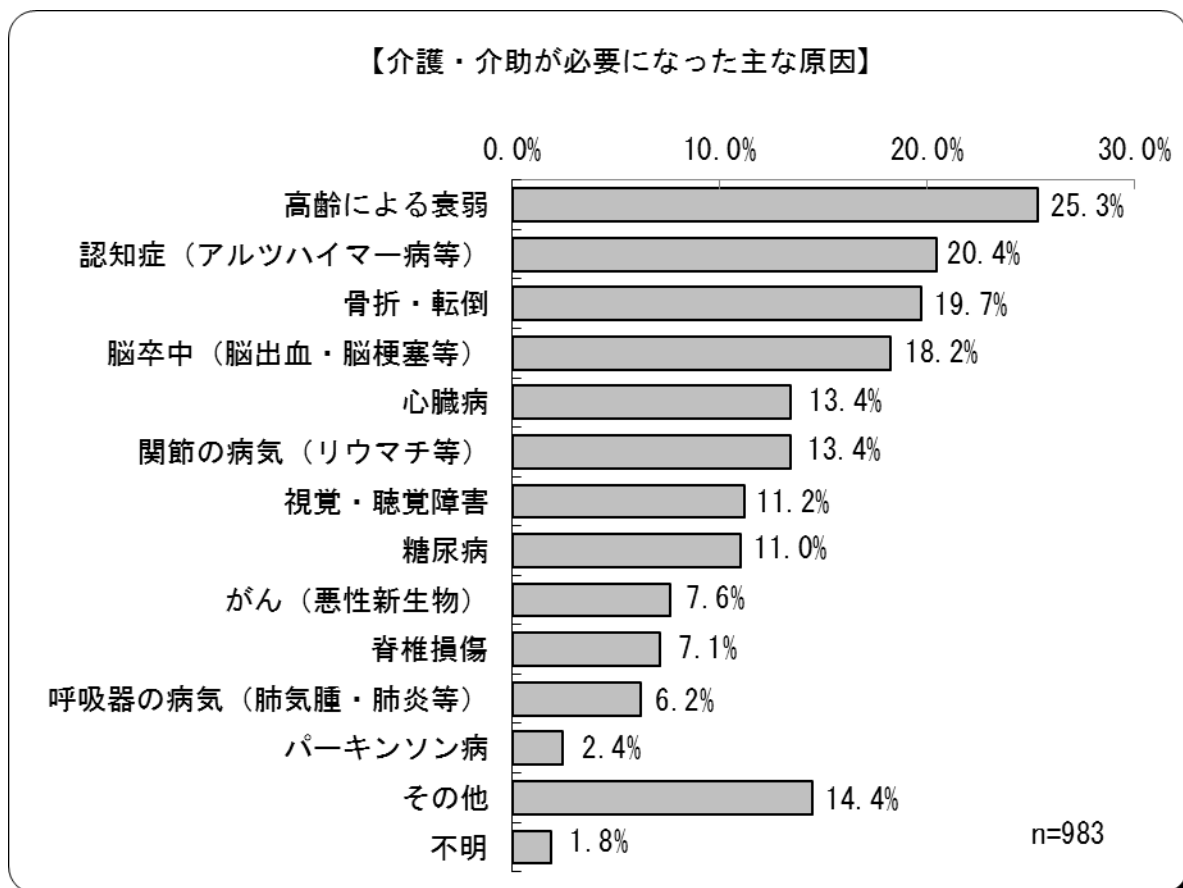
「介護・介助を受けている」と回答した方の介護者は「配偶者(夫・妻)」22.5%が最も多く、次いで、「介護サービスのヘルパー」21.1%、「娘」13.9%の順となっています。

介護者の年齢は「65歳未満」が40.6%と最も多く、次いで、「75～84歳」18.2%、「65～74歳」16.6%、「85歳以上」5.7%の順となっています。



2. 介護が必要になった主な原因

介護の必要性について、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護・介助を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合を含む)」と回答した方に介護・介助が必要になった主な原因をたずねると、「高齢による衰弱」が25.3%と最も多く、次いで、「認知症(アルツハイマー病等)」20.4%、「骨折・転倒」19.7%の順となっています。



(5) 参考資料

① 基本チェックリストとは

基本チェックリストとは、65歳以上の方を対象に介護の原因となりやすい生活機能低下の危険性がないかどうか、厚生労働省のガイドラインに基づいた運動、口腔、栄養、物忘れ、うつ症状、閉じこもり等の全25項目について「はい」「いいえ」で記入して頂く質問表です。

No	質問項目	回答		ニーズ調査設問
1	バスや電車で1人で外出していますか	0. はい	1. いいえ	問6-1
2	日用品の買い物をしていますか	0. はい	1. いいえ	問6-2
3	預貯金の出し入れをしていますか	0. はい	1. いいえ	問6-5
4	友人の家を訪ねていますか	0. はい	1. いいえ	問7-5
5	家族や友人の相談にのっていますか	0. はい	1. いいえ	問7-6
6	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0. はい	1. いいえ	問2-1
7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0. はい	1. いいえ	問2-2
8	15分間位続けて歩いていますか	0. はい	1. いいえ	問2-3
9	この1年間に転んだことはありますか	1. はい	0. いいえ	問3-1
10	転倒に対する不安は大きいですか	1. はい	0. いいえ	問3-2
11	6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少はありましたか	1. はい	0. いいえ	問4-1
12	身長(cm) 体重(kg) (*BMI18.5未満なら該当) *BMI(=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m))	1. はい	0. いいえ	問4-2
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	0. いいえ	問4-3
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい	0. いいえ	問4-4
15	口の渇きが気になりますか	1. はい	0. いいえ	問4-5
16	週に1回以上は外出していますか	0. はい	1. いいえ	問2-5
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. はい	0. いいえ	問2-6
18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	1. はい	0. いいえ	問5-1
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0. はい	1. いいえ	問5-2
20	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい	0. いいえ	問5-3
21	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	1. はい	0. いいえ	問8-8
22	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1. はい	0. いいえ	問8-9
23	(ここ2週間)以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1. はい	0. いいえ	問8-10
24	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	1. はい	0. いいえ	問8-11
25	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	1. はい	0. いいえ	問8-12

< 判 定 >

- | | |
|--|---|
| ● No.1～20: 生活機能全般について
1～20項目のうち、10項目に該当 | ● No.6～10: 運動器機能の低下がないか
運動5項目のうち、3項目以上に該当 |
| ● No.11、12: 栄養が不足していないか
栄養改善2項目のうち、すべてに該当 | ● No.13～15: 口腔機能の低下がないか
口腔3項目のうち2項目に該当 |
| ● No.16、17: 閉じこもりの状態でないか
閉じこもり2項目のうち、No.16に該当 | ● No.18～20: 認知能力の低下がないか
認知能力3項目のうち、いずれかに該当 |
| ● No.21～25: 「うつ」の可能性がないか
うつ予防の5項目のうち、2項目以上に該当 | |